

開設	経済学科
科目ナンバー	EA112
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EA011200
講義名	基礎会計学IA組
担当者名	吉澤 一子
開講情報	春期 木曜日 3時限 563教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C
備考	
科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学I」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない者を対象として、財務会計論（商業簿記と財務諸表論）の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 （理解のレベル）	<p>財務会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記と会計理論の知識と処理能力の修得を目標とする。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>授業時間中、適宜演習を行う時間を設ける。講義の最後に小テストを実施し、解説を行う。</p> <p>【第1回】オリエンテーション：簿記とは何か、簿記の意義、簿記の活用の仕方</p> <p>【第2回】簿記の全体像：簿記一巡、勘定科目の5要素</p> <p>【第3回】現金、当座預金、小口現金</p>

授業計画	<p>【第4回】 問題演習</p> <p>【第5回】 商品売買①</p> <p>【第6回】 商品売買②</p> <p>【第7回】 手形、電子記録債権、電子記録債務</p> <p>【第8回】 固定資産</p> <p>【第9回】 その他の債権・債務</p> <p>【第10回】 営業費</p> <p>【第11回】 貸倒れ、貸倒引当金</p> <p>【第12回】 証憑・伝票</p> <p>【第13回】 問題演習(試験)</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点：40%（授業に対する姿勢、出席）、授業終了前の小テスト：30%、学期末のテスト30%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>（教科書） 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 第3回以降の授業では、実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用いること（スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可）。第1回の授業において、簿記検定試験等で使用可能な計算機を紹介する。</p> <p>② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EA112
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EA011210
講義名	基礎会計学I B組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	春期 木曜日 3時限 241教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C

備考

科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学I」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論（商業簿記と財務諸表論）と管理会計論（工業簿記と原価計算）の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 （理解のレベル）	<p>財務会計論と管理会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記の知識と処理能力の修得を目標とする。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。</p> <p>基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。</p> <p>レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabaにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、希望があれば、ネットワークプリンターでのレジュメの提供も行う。</p> <p>Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること（sibamura@asia-u.ac.jp）。</p>

	出席は教室での出欠確認またはResponを使用する。
	【第1回】テーマ：オリエンテーション、簿記の意義
	【第2回】テーマ：簿記一巡
	【第3回】テーマ：帳簿組織、主要簿
	【第4回】テーマ：商品売買(1)掛取引
	【第5回】テーマ：商品売買(2)仕入諸掛、問題演習(1)
	【第6回】テーマ：現金・現金過不足
授業計画	【第7回】テーマ：預金、手形、固定資産の取得・改修
	【第8回】テーマ：その他の債権債務・収益費用、問題演習(2)
	【第9回】テーマ：純資産・訂正仕訳
	【第10回】テーマ：証憑・帳簿の締め切り問題演習(3)
	【第11回】テーマ：補助元帳
	【第12回】テーマ：問題演習(3)
	【第13回】テーマ：総復習
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。</p> <p>解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点：30%（授業に対する姿勢）、学期末のテスト(Responへの回答、宿題、レポート、課題等)70%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。</p> <p>また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>（教科書）</p> <p>『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2022年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>

履修上の留意点

- ① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用意すること（スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可）。
- ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EA112
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EA011220
講義名	基礎会計学IC組
担当者名	吉澤 一子
開講情報	春期 木曜日 4時限 224教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C
備考	
科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学I」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない者を対象として、財務会計論（商業簿記と財務諸表論）の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 （理解のレベル）	<p>財務会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記と会計理論の知識と処理能力の修得を目標とする。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>授業時間中、適宜演習を行う時間を設ける。講義の最後に小テストを実施し、解説を行う。</p> <p>【第1回】オリエンテーション：簿記とは何か、簿記の意義、簿記の活用の仕方</p> <p>【第2回】簿記の全体像：簿記一巡、勘定科目の5要素</p> <p>【第3回】現金、当座預金、小口現金</p>

授業計画	<p>【第4回】 問題演習</p> <p>【第5回】 商品売買①</p> <p>【第6回】 商品売買②</p> <p>【第7回】 手形、電子記録債権、電子記録債務</p> <p>【第8回】 固定資産</p> <p>【第9回】 その他の債権・債務</p> <p>【第10回】 営業費</p> <p>【第11回】 貸倒れ、貸倒引当金</p> <p>【第12回】 証憑・伝票</p> <p>【第13回】 問題演習(試験)</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点：40%（授業に対する姿勢、出席）、授業終了前の小テスト：30%、学期末のテスト30%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>（教科書） 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 第3回以降の授業では、実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用いること（スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可）。第1回の授業において、簿記検定試験等で使用可能な計算機を紹介する。</p> <p>② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EA113
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EA011300
講義名	基礎会計学II A組
担当者名	吉澤 一子
開講情報	秋期 木曜日 3時限 563教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C
備考	
科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学II」では「基礎会計学I」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない者を対象として、財務会計論（商業簿記と財務諸表論）の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 （理解のレベル）	<p>財務会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記と会計理論の知識と処理能力の修得を目標とする。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>授業時間中、適宜演習を行う時間を設ける。講義の最後に小テストを実施し、解説を行う。</p> <p>【第1回】 期中取引の復習</p> <p>【第2回】 税金、新株発行、剰余金の配当</p> <p>【第3回】 決算整理①：決算整理の全体像、経過勘定</p>

授業計画	<p>【第4回】決算整理②：現金過不足3、貯蔵品10、当座借越3、帳簿の締め切り</p> <p>【第5回】試算表</p> <p>【第6回】問題演習（試算表）</p> <p>【第7回】精算表、貸借対照表、損益計算書</p> <p>【第8回】帳簿組織（主要簿、補助簿）</p> <p>【第9回】問題演習（補助簿）</p> <p>【第10回】問題演習</p> <p>【第11回】問題演習（試験）</p> <p>【第12回】2級商業簿記の概要</p> <p>【第13回】2級工業簿記の概要</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点：40%（授業に対する姿勢、出席）、授業終了前の小テスト：30%、学期末のテスト30%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>（教科書） 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 第3回以降の授業では、実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を使用すること（スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可）。第1回の授業において、簿記検定試験等で使用可能な計算機を紹介する。</p> <p>② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EA113
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EA011310
講義名	基礎会計学II B組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	秋期 木曜日 3時限 241教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C

備考

科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学II」では「基礎会計学I」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論（商業簿記と財務諸表論）と管理会計論（工業簿記と原価計算）の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 (理解のレベル)	<p>財務会計論と管理会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記の知識と処理能力の修得を目標とする。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。</p> <p>基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。</p> <p>レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabaにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、希望があれば、ネットワークプリンターでのレジュメの提供も行う。</p> <p>Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること（sibamura@asia-u.ac.jp）。</p>

出席は教室での出欠確認またはResponを使用する。

【第1回】 テーマ：期中取引の復習

【第2回】 テーマ：決算手続(1) 精算表

【第3回】 テーマ：決算手続(2) 売上原価の考え方、商品有高帳、売上原価の仕訳

【第4回】 テーマ：問題演習(1)

【第5回】 テーマ：決算手続(3) 貸倒損失と貸倒引当金

【第6回】 テーマ：決算手続(4) 有形固定資産と減価償却、固定資産台帳

授業計画 【第7回】 テーマ：決算手続(5) 経過勘定、その他決算手続

【第8回】 テーマ問題演習(2)

【第9回】 テーマ：決算手続(6) 精算表演習、貸借対照表、損益計算書

【第10回】 テーマ：税金、剰余金、配当

【第11回】 テーマ：決算整理後試算表と財務諸表、帳簿の関係

【第12回】 テーマ：伝票

【第13回】 テーマ：総復習

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。

解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんでほしい。

何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。

成績評価方法・基準

平常点：30%（授業に対する姿勢）、学期末のテスト(Responへの回答、宿題、レポート、課題等)70%

授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。

また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。

課題（試験
やレポート
等）について
のフィードバック
方法

本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指
定図書

（教科書）

『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2022年。ISBN→978-4-407-34774-6

履修上の留意点

- ① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用意すること（スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可）。
- ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EA113
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EA011320
講義名	基礎会計学ⅡC組
担当者名	吉澤 一子
開講情報	秋期 木曜日 4時限 224教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C

備考

科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学Ⅱ」では「基礎会計学Ⅰ」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない者を対象として、財務会計論（商業簿記と財務諸表論）の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 （理解のレベル）	<p>財務会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記と会計理論の知識と処理能力の修得を目標とする。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>授業時間中、適宜演習を行う時間を設ける。講義の最後に小テストを実施し、解説を行う。</p> <p>【第1回】期中取引の復習</p> <p>【第2回】税金、新株発行、剰余金の配当</p> <p>【第3回】決算整理①：決算整理の全体像、経過勘定</p>

授業計画	<p>【第4回】決算整理②：現金過不足3、貯蔵品10、当座借越3、帳簿の締め切り</p> <p>【第5回】試算表</p> <p>【第6回】問題演習（試算表）</p> <p>【第7回】精算表、貸借対照表、損益計算書</p> <p>【第8回】帳簿組織（主要簿、補助簿）</p> <p>【第9回】問題演習（補助簿）</p> <p>【第10回】問題演習</p> <p>【第11回】問題演習（試験）</p> <p>【第12回】2級商業簿記の概要</p> <p>【第13回】2級工業簿記の概要</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点：40%（授業に対する姿勢、出席）、授業終了前の小テスト：30%、学期末のテスト30%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>（教科書） 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 第3回以降の授業では、実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を使用すること（スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可）。第1回の授業において、簿記検定試験等で使用可能な計算機を紹介する。</p> <p>② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EF208
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EB020700
講義名	憲法
担当者名	吉村 典久
開講情報	通年 火曜日 1時限 235教室
単位数	4
受講可能学部	E

備考

科目の趣旨	日本国憲法は質量ともに充実した内容を持った憲法であるが、その理念は制定以来多くの試練に立たされてきた。この科目では、憲法の歴史と憲法運用の実態を検証することにより日本国憲法の意義を再確認するとともに憲法解釈論を考えていく。テーマ例をあげると、日本国憲法の成立と意義、国民主権と象徴天皇制、戦争放棄と再軍備、平和運動、選挙、国会運営、行政権、人権の歴史、法の下での平等、差別、思想良心、表現、信教の自由、政教分離原則、刑事手続と人権、生存の保障、教育を受ける権利、労働基本権、プライバシーの権利と個人情報の保護等である。
授業の内容	日本国憲法は、一国の最高法規であり、日本の国家及び国民の最高の行動規範となっている。しかし、その内容について国民は十分に理解しているとは言いがたい。そこで、本講義では、日本国憲法全体を体系的に講義する。より具体的には、日本国憲法に規定している基本的人権保証の部分と統治機構の部分に分けて解説する。特に、重要判例を中心に講義を進め、できるだけわかりやすく論点を提示する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この科目を無事に履修した受講生は、次のことができるようになることを期待されている。 ① 日本国憲法の基本的人権保障及び統治機構の規定内容を理解することができる。 ② 具体的な事案について、日本国憲法がどのように指定化され、使われているのかその知識を身につけることができる。
授業形態	講義
授業方法	授業で使用する資料(PDFファイル)は、事前にオンラインでアップする。
	【第1回】 ガイダンス(憲法学習の心がけ) 【第2回】 憲法の意義、沿革、立憲主義 【第3回】 人権総論1(基本的人権の享有主体) 【第4回】 人権総論2(憲法上の権利 概観) 【第5回】 人権総論3(公共の福祉) 【第6回】 幸福追求権(私生活上の自由・自己決定権・プライバシー権) 【第7回】 平等(平等とは何か・合理的差別・審査基準) 【第8回】 思想・良心の自由 【第9回】 信教の自由 【第10回】 表現の自由

授業計画	<p>【第11回】 人身の自由</p> <p>【第12回】 営業の自由</p> <p>【第13回】 社会権等（生存権・教育を受ける権利・労働基本権等）</p> <p>【第14回】 平和主義</p> <p>【第15回】 国民主権</p> <p>【第16回】 天皇</p> <p>【第17回】 国会1（議会と国民代表制）</p> <p>【第18回】 国会2（国会の地位）</p> <p>【第19回】 国会3（国会の諸権能）</p> <p>【第20回】 内閣1（内閣の組織と権限）</p> <p>【第21回】 内閣2(議院内閣制)</p> <p>【第22回】 内閣3（行政権）</p> <p>【第23回】 財政と予算</p> <p>【第24回】 裁判所（司法権・違憲審査制・憲法訴訟）</p> <p>【第25回】 地方自治</p> <p>【第26回】 事例研究 総括</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>事前学習: 授業で使用する資料(PDFファイル)は、事前にオンラインでアップするので、十分に読んでおくこと。</p> <p>事後学習: 授業で使った資料(PDFファイル)に記載された判例・文献やそれに関連する判例・文献を確認し、授業内容と照らし合わせて復習すること。</p>
成績評価方法・基準	<p>原則として、下記規準にしたがって評価する。</p> <p>① 学年末試験 80%</p> <p>② 授業内のパフォーマンスを評価する平常点 20%</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書：</p> <p>① 新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法Ⅰ総論・統治(第2版)（日評ベーシック・シリーズ）』（日本評論社 2021年）978-4-535-80688-7</p> <p>② 新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法Ⅱ人権（同）(第2版)』日本評論社（日本評論社 2021年）978-4-535-80689-4</p> <p>必携書：荒木尚志＝森田宏樹編『ポケット六法 令和7年版』（有斐閣 2024年）978-4-641-</p>

00925-7

履修上の留意点

本講義は、教員が学生に授業中随時に質問をし、あるいは、設問を解答させるなどを行う対話型授業である。

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EF209
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EB020800
講義名	民法
担当者名	長岐 郁也
開講情報	通年 金曜日 2時限 200教室
単位数	4
受講可能学部	E

備考

科目の趣旨	<p>民法典は、私人間の権利関係や身分関係について規定する法律である。また、私人間で生じたトラブルを解決するための規範でもある。この科目の前半では、民法における財産法（総則・物権・債権）について具体的事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを意図している。この科目の後半では、民法における家族法（親族・相続）について具体的事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを意図している。</p>
授業の内容	<p>私法の一般法である民法は日常生活に関わる法律上のルールを多く担っており、身近に感じることもできるルールもあれば、理解が難しいルールも存在する。こうしたルールについて、判例や学説などを用いて学習を進めていくこととなるが、民法の対象範囲は広範に及ぶため、まずはルールの概要を抑えることができるためにレジュメやサブノートを作成し、教科書と併せて学習に利用することで理解の促進に役立てるものとする。</p>
科目の到達目標 （理解のレベル）	<p>本講義では民法に定められる諸制度の基礎的理解を図るとともに、法的思考を身に付けることが目標であり、実際の社会でどのように作用しているのかを理解することができるようにすることが到達点となる。具体的には民法をテーマとするニュースを読み、その概要を理解できるようにする。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>教科書と教員作成のレジュメとサブノートを併用して講義を行う。 民法が規定する制度の解説がメインとなるが、適宜、民法に関わるニュース等を用いることで身近な問題に法がかかわることに触れていきたい。 また、各回において講義の最後に小テストをmanabaを通じて実施し、理解の確認を行う。 なお、レジュメやサブノート等の掲出はすべてmanabaを通じて行うものとする。</p>
	<p>【第1回】ガイダンス</p> <p>【第2回】能力制度</p> <p>【第3回】法人制度</p> <p>【第4回】契約の成立</p> <p>【第5回】意思表示</p> <p>【第6回】債権の発生</p> <p>【第7回】債権の消滅</p> <p>【第8回】債務不履行の種類</p> <p>【第9回】債務不履行に対する救済と例外</p>

授業計画	<p>【第10回】 責任財産の保全</p> <p>【第11回】 人的担保</p> <p>【第12回】 物的担保</p> <p>【第13回】 物権変動</p> <p>【第14回】 即時取得と時効</p> <p>【第15回】 一般の不法行為</p> <p>【第16回】 特殊な不法行為</p> <p>【第17回】 婚姻</p> <p>【第18回】 離婚</p> <p>【第19回】 実親子関係</p> <p>【第20回】 養親子関係と扶養</p> <p>【第21回】 相続制度</p> <p>【第22回】 相続の効力</p> <p>【第23回】 相続の手続き</p> <p>【第24回】 遺産分割</p> <p>【第25回】 遺言</p> <p>【第26回】 遺贈と遺留分</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>講義を受講した後に再度教科書とサブノートを見返しながら、講義内容をノートにまとめることで理解の定着を図ること。</p> <p>なお、法律用語を理解することは外国語を学ぶように難解でもあるため、法学用語辞典等の活用も望まれる。</p>
成績評価方法・基準	初回を除く全25回で実施する小テストで評価する。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での小テストの講評・解説については授業内でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書：松久三四彦・遠山純弘・林誠司『オリエンテーション民法』（第3版）（有斐閣、2024年）</p> <p>参考書：六法（種類は任せます）</p>
履修上の留意点	<p>私語は厳禁とする。</p> <p>各回で実施する小テストは、講義の確認であるとともに評価の対象となるため、必ず受講して受験すること。正当な理由の欠席による未受験は別途対応するので、不正受験は絶対</p>

にしないようにすること。

更新日 2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC203
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC020300
講義名	経済成長論I
担当者名	申 寅容
開講情報	春期 水曜日 4時限 7200教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L

備考

科目の趣旨	経済成長は豊かさをもたらす重要な要素である。世界各国の所得水準を比較してみると、日本、アメリカのように豊かな国がある一方、貧しい国もある。豊かな国と貧しい国の1人当たりの所得や生活水準の格差は非常に大きい。この格差は経済学者の関心を引き起こし、近年広い範囲で研究が行われてきた。経済成長論では、豊かな国はどのように豊かで貧しい国はどのように貧しいのか、貧しい国は永遠に貧しいままとり残されてしまうのか、どうすれば貧しい国は豊かになれるのか、などについて探求する。「経済成長論I」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	経済成長と経済発展の基礎データを利用して国家間の成長の差異について学ぶ。また、経済成長の主要な決定要因や経済成長のためのさまざまな経済政策などについて理論的かつ実証的に学ぶ。理論モデルとして、ソローモデル、内生的成長モデルなどを取り扱う。かつ、実証分析のため、1人当たりGDP、資本ストック、投資、人口、人的資本、所得不平等度などのデータを用いる。また、経済成長に関する最新の論文や書籍などを紹介する予定である。Kumar and Russel (2002), Kruger (2003), Shin (2012, 2020, 2024), クルーグマン (1997)などを予定している。参考文献の詳細については、教科書・指定図書欄を参照のこと。
科目の到達目標 (理解のレベル)	経済成長と経済発展に関する様々な問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につける。所得と成長の国別格差について理解し、その格差をもたらす生産要素の蓄積や生産性の格差などについて理解する。さらに、その生産要素の蓄積と生産性の格差の底にある、より深い決定要因について理解する。国家間の違いを理解し、国際社会の一員として、直面する課題に積極的に取り組み、解決する能力を身につける。
授業形態	講義
授業方法	通常は講師による講義形式での授業を行う。授業中に講師から受講者へ質問することが多い。対面授業（学生と教員が教室で向き合う授業）を原則とするが、新型コロナウイルスの感染状況、教育効果、ティーチングスキルの向上などを考慮した上で、zoomなどを利用したオンライン授業やハイブリッド授業を複数回取り入れることを予定している。オンライン授業やハイブリッド授業のスケジュールについてはmanabaに1週間前までに通知する。
	<p>【第1回】イントロダクション 内容：ガイダンス、経済成長論のオーバービュー</p> <p>【第2回】経済成長に関する諸事実 内容：所得水準の諸国間格差、各国間の所得成長率の相違、成長率、年平均成長率</p> <p>【第3回】購買力平価 内容：一物一価、為替レートと購買力平価、貿易財と非貿易財、バラッサ・サミュエルソン効果</p>

【第4回】分析のためのフレームワーク
内容：散布図と相関，因果関係

【第5回】ソローモデル
内容：資本の性質，生産関数，規模に関して収穫一定，限界生産物，資本の限界生産物逓減，資本分配率

【第6回】移行経路と定常状態
内容：資本蓄積方程式，減価償却，成長率

授業計画 【第7回】ソローモデルの応用
内容：投資率の変化，投資と貯蓄の関係

【第8回】黄金律
内容：消費の最大化

【第9回】マルサス・モデル
内容：マルサス罨，マルサス的均衡から脱出，マルサス・モデルの崩壊

【第10回】人口と経済成長
内容：ソロー・モデルによる人口成長，人口成長の変化と成長

【第11回】人口転換
内容：死亡率，死亡転換，死亡率の減少，出生率，出生転換，出生率の減少，後発性の利益，コンプレス転換，早期転換，多産多死，多産少死，少産少死，人口転換の内生化

【第12回】将来の人口トレンド
内容：人口の予測，死亡率の予測，出生率の予測，人口モメンタム

【第13回】高齢化と経済成長
内容：人口変化の経済的帰結，人口の高齢化，構成効果

事前・事後学修に必要な時間 本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容

1. 授業の前に前回の授業内容やmanabaにあるマテリアル等を確認し，授業に臨むこと。
2. 課題がある場合は，事前にmanabaに掲載するので，各自で取り組むこと。
3. 課題は成績評価方法・基準の欄に示す通り，評価の10%を占める。
4. 課題について，分からないことがある場合は，授業中に質問，またはメールで問い合わせること。問い合わせの解説は課題提出の締め切り後に行う。
5. 余裕のある学生は教科書・指定図書のある参考文献を読んでみる。

成績評価方法・基準

1. 経済成長論の基礎的な内容を理解しているかどうかを評価する。
2. 総合試験（80%），課題（10%），平常点（10%）で評価する。
3. 総合試験は1回のみ実施する。やむを得ず試験に欠席する場合は必要な手続きをとってください。
4. 総合試験はオンラインで実施する予定である。
5. 試験問題は選択式と記述式を併用する予定である。
6. 試験問題や課題については，受講生の理解度や授業の進捗状況などを考慮し，出題する予定である。

課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法
本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書：指定なし

参考文献

[1] Weil, D., 2012, Economic Growth, Prentice Hall, 第3版

[2] Kumar, S. and Russel, R., 2002, Technological Change, Technological Catch-up, and Capital Deepening: Relative Contributions to Growth and Convergence, American Economic Review, Vol. 92(3), pp.527-548.

[3] Shin, I., 2012, Income inequality and economic growth, Economic Modelling, Vol. 29(5), pp.2049-2057

[4] Shin, I., 2020, Learning Advanced Technology in Easier Ways from Developed Countries, Journal of Economics and Finance, Vol. 44(1), pp.120-139

[5] Shin, I., 2024, The effects of pandemics on income inequality: Visualizing a theoretical analysis, Economic Modelling, Vol. 133, pp.1-16

[6] クルーグマン, P., 1997, クルーグマンの 良い経済学 悪い経済学, 日本経済新聞出版

教科書・指
定図書

履修上の留
意点

ミクロ経済学, マクロ経済学, 経済学基礎数学の知識が必要である。
グラフによる説明が多い。グラフを見て理解できること。

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC204
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC020400
講義名	経済成長論II
担当者名	申 寅容
開講情報	秋期 水曜日 4時限 7200教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L

備考

科目の趣旨	経済成長は豊かさをもたらす重要な要素である。世界各国の所得水準を比較してみると、日本、アメリカのように豊かな国がある一方、貧しい国もある。豊かな国と貧しい国の1人当たりの所得や生活水準の格差は非常に大きい。この格差は経済学者の関心を引き起こし、近年広い範囲で研究が行われてきた。経済成長論では、豊かな国はどのように豊かで貧しい国はどのように貧しいのか、貧しい国は永遠に貧しいままとり残されてしまうのか、どうすれば貧しい国は豊かになれるのか、などについて探求する。「経済成長論II」では「経済成長論I」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	経済成長と経済発展の基礎データを利用して国家間の成長の差異について学ぶ。また、経済成長の主要な決定要因や経済成長のためのさまざまな経済政策などについて理論的かつ実証的に学ぶ。理論モデルとして、ソローモデル、内生的成長モデルなどを取り扱う。かつ、実証分析のため、1人当たりGDP、資本ストック、投資、人口、人的資本、所得不平等度などのデータを用いる。また、経済成長に関する最新の論文や書籍などを紹介する予定である。Kumar and Russel (2002), Kruger (2003), Shin (2012, 2020, 2024), クルーグマン (1997)などを予定している。参考文献の詳細については、教科書・指定図書欄を参照のこと。
科目の到達目標 (理解のレベル)	経済成長と経済発展に関する様々な問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につける。所得と成長の国別格差について理解し、その格差をもたらす生産要素の蓄積や生産性の格差などについて理解する。さらに、その生産要素の蓄積と生産性の格差の底にある、より深い決定要因について理解する。国家間の違いを理解し、国際社会の一員として、直面する課題に積極的に取り組み、解決する能力を身につける。
授業形態	講義
授業方法	通常は講師による講義形式での授業を行う。授業中に講師から受講者へ質問することが多い。対面授業（学生と教員が教室で向き合う授業）を原則とするが、新型コロナウイルスの感染状況、教育効果、ティーチングスキルの向上などを考慮した上で、zoomなどを利用したオンライン授業やハイブリッド授業を複数回取り入れることを予定している。オンライン授業やハイブリッド授業のスケジュールについてはmanabaに1週間前までに通知する。
	<p>【第1回】人的資本(1) 基本モデル 内容：健康という形態の人的資本，教育という形態の人的資本，教育の収益</p> <p>【第2回】人的資本(2) 応用 内容：人的資本の配分比率，教育の質，外部効果</p> <p>【第3回】収束理論：絶対収束と条件収束 内容：定常状態，移行経路，収束，収束論争，絶対収束，条件収束</p> <p>【第4回】発展会計</p>

内容：生産性水準の格差，生産性格差の測定

【第5回】成長会計

内容：生産性の伸び率の格差，ソロー残差，全要素生産性

【第6回】経済成長における技術の役割(1) 1国モデルのオーバービュー

内容：技術進歩の性質，技術移転，技術の創出と成長の関係をモデル化，モデルの枠組みと諸前提

授業計画

【第7回】経済成長における技術の役割(2) 1国モデルの応用

内容：労働のR&Dへの移動効果，短期と長期

【第8回】経済成長における技術の役割(3) 2国モデルのオーバービュー

内容：技術リーダーと技術フォロワー，モデルの枠組みと諸前提，技術開発費用

【第9回】経済成長における技術の役割(4) 2国モデルの応用

内容：技術リーダー国のR&Dの増加，技術フォロワー国のR&Dの増加

【第10回】内生的成長モデル

内容：モデルの枠組みと諸前提，一般的ケース

【第11回】最先端技術

内容：技術変化の速度，技術の生産関数，差異のある技術進歩

【第12回】効率性

内容：生産性分解，効率性の差，非効率性の形態

【第13回】包絡線分析

内容：包絡線分析，要因分解

事前・事後
学修に必要な
時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

1. 授業の前に前回の授業内容やmanabaにあるマテリアル等を確認し，授業に臨むこと。
2. 課題がある場合は，事前にmanabaに掲載するので，各自で取り組むこと。
3. 課題は成績評価方法・基準の欄に示す通り，評価の10%を占める。
4. 課題について，分からないことがある場合は，授業中に質問，またはメールで問い合わせること。問い合わせの解説は課題提出の締め切り後に行う。
5. 余裕のある学生は教科書・指定図書のある参考文献を読んでみる。

成績評価方
法・基準

1. 経済成長論の基礎的な内容を理解しているかどうかを評価する。
2. 総合試験（80%），課題（10%），平常点（10%）で評価する。
3. 総合試験は1回のみ実施する。やむを得ず試験に欠席する場合は必要な手続きをとってください。
4. 総合試験はオンラインで実施する予定である。
5. 試験問題は選択式と記述式を併用する予定である。
6. 試験問題や課題については，受講生の理解度や授業の進捗状況などを考慮し，出題する予定である。

課題（試験
やレポート
等）につい
てのフィー
ドバック方
法

本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書：指定なし

参考文献

[1] Weil, D., 2012, Economic Growth, Prentice Hall, 第3版

[2] Kumar, S. and Russel, R., 2002, Technological Change, Technological Catch-up, and Capital Deepening: Relative Contributions to Growth and Convergence, American Economic Review, Vol. 92(3), pp.527-548.

[3] Shin, I., 2012, Income inequality and economic growth, Economic Modelling, Vol. 29(5), pp.2049-2057

[4] Shin, I., 2020, Learning Advanced Technology in Easier Ways from Developed Countries, Journal of Economics and Finance, Vol. 44(1), pp.120-139

[5] Shin, I., 2024, The effects of pandemics on income inequality: Visualizing a theoretical analysis, Economic Modelling, Vol. 133, pp.1-16

[6] クルーグマン, P., 1997, クルーグマンの 良い経済学 悪い経済学, 日本経済新聞出版

ミクロ経済学, マクロ経済学, 経済学基礎数学の知識が必要である.
グラフによる説明が多い. グラフを見て理解できること.

教科書・指
定図書

履修上の留
意点

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC207
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC020700
講義名	国際経済学I
担当者名	高橋 知也
開講情報	春期 火曜日 4時限 552教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C

備考

科目の趣旨	経済のグローバル化が進むなかで、財、サービス、ヒト、企業が世界を移動するだけでなく、マネーが世界中を駆け巡る状況が発生している。このような現状を踏まえ、国際経済学の主要な分野である国際貿易について基本的な内容（なぜ貿易が発生するのか、政府の保護政策がもたらす影響等）を講義し、グローバル化が進む日本経済の現状を考察することを目的とする。
授業の内容	<p>急激な変貌を遂げる国際経済の世界を理解するために経済学の原理は必要不可欠です。国際経済学はいろいろな国を理解することと誤解している人も多いですが、重要な対象は我が国経済です。日本経済は国境を越え、グローバル経済の中で活動しており、貿易、企業の海外進出、資金の国際移動、人の国際移動等を通じて我が国経済は国際経済の荒波の中で活動しており、その活動を理解し、分析することが国際経済学の目的と考えることが出来ます。</p> <p>火曜日の授業は現実経済を前提として貿易理論の基礎的な内容を学びます。国際貿易において重要なテーマは自由貿易が望ましいことを前提としながら、自由貿易が自国にとって望ましくない状況や政府の政策が貿易に与える影響を考えます。</p>
科目の到達目標 （理解のレベル）	本講義を通じて国際経済の分野のなかで貿易理論の基礎を学ぶことが出来るだけでなく、現在、我が国が抱える国際経済に関する諸問題、例えば日本企業の海外進出に伴う産業の空洞化、人口減少が進む中で外国人労働者の流入問題など、国際経済に関する問題は多数存在します。また、海外諸国から指摘される“失われた30年問題”と高齢化社会が招く日本経済の崩壊そして新型コロナウイルス後の日本と世界経済がどのように変化していくのかを考えることが出来るようになります。
授業形態	講義
授業方法	授業方法是对面の授業が主となる。授業支援システム（manaba）、遠隔会議システム（Zoom）等を用いた授業も状況に応じて行う可能性がある。教材の一部はYouTube上にアップされており、それも参照することが必要となる。事前に配布された資料や指定された教科書類を読んでいることを前提として、教室での講義の受講という形式で実施する。
	<p>【第1回】世界経済の現状と構造変化 内容：2020年より世界経済に大打撃を与えた新型コロナウイルスの影響を解説する。</p> <p>【第2回】国際経済体制の課題と対応 内容：我が国が重要な役割を果たすTPPに代表される地域貿易協定が果たす役割等について解説する。 テキスト：『超入門経済学』 第9章</p> <p>【第3回】米国および欧州経済の現状 内容：新型コロナウイルスの影響が欧米経済に与えた影響とアフターコロナにおける経済状況を解説する。</p> <p>【第4回】アジアの経済成長</p>

内容：新型コロナウイルスの影響がアジア経済に与えた影響と現状について解説する。特に日本企業の多くがタイ、ベトナム、インド等に進出しているが日本企業への影響を中心に解説する。

課題：サプライチェーンの崩壊が与えた影響

【第5回】需要と供給入門

内容：市場メカニズムとは何か。市場に委ねることの正当性と完全競争の最適性とは何か。市場に委ねることでみんなが得をする。

テキスト：『超入門経済学』第1章

課題：授業中に与える需要と供給に関する例題を解く。

【第6回】自由貿易とは何か

内容：自由貿易の利益と比較優位の考え方を講義し、国際分業のあり方を考える。

テキスト：『超入門経済学』第8章

授業計画

【第7回】政府が自由貿易に介入すると何が起きるのか

内容：自由貿易の状態から政府が輸入関税、輸入割当、輸出補助金、輸出税等の様々な政策介入の問題点を解説する。

テキスト：『超入門経済学』第8章

【第8回】貿易はなぜ発生するのか：優れた技術が輸出を促進することは本当なのか

内容：リカードの比較生産費に基づく比較優位の考え方を解説する。

テキスト：『私大文系のミクロ経済学』

『超入門経済学』第8章

【第9回】土地、人、資本の存在量の違いが貿易を発生させる：土地や人口が多い中国は世界の工場となるのは必然なのか？

内容：ヘクシャーオリーンモデルの基本を解説する。

テキスト：『コア・テキスト 国際経済学』第5章

【第10回】貿易は日米の地価を均等化する。

内容：ヘクシャーオリーンモデルに基づいて、要素価格均等化定理について解説する。

テキスト：『私大文系のミクロ経済学』

【第11回】労働者を守る政策が労働者を苦しめる。

内容：ストルパーサミュエルソン定理を解説する。

テキスト：『私大文系のミクロ経済学』

【第12回】お金と人の国際間の移動はどのような影響を与えるのか。

内容：国際資本移動と労働の国際移動について解説する。

テキスト：『私大文系のミクロ経済学』

【第13回】まとめ (理解度確認と解説)

授業全体を振り返り、その理解度を確認する作業を行い、質疑応答を行う。

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

事前に指定された教科書及びmanabaにアップされた講義ノートを通読し、疑問点を持って講義に臨むことが望ましい。授業の理解のために宿題等も必ず自力で解くことが望ましい。各自しっかり取り組み、分からないことがある場合はZoomによる生質問会及びメールで問い合わせること。

事後的な学習はmanaba上にアップされる問題を確実に解き、指定された参考書等を読むことで、その分野への理解度を高めることが望まれる。

火曜日の授業においては国際貿易の基本となる自由貿易の利益から始まり、関税と輸入割

成績評価方法・基準	<p>当の同値定理、比較優位に基づく技術格差による貿易理論であるリカードの貿易理論を理解しているかが問われる。さらに要素賦存の相違から貿易が発生するヘクシャー・オリーンモデルの基本を理解しているか等が問われる。</p> <p>数回実施されるミニテストと最終試験：80%、平常点：20%</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書と参考書 拙著『私大文系のミクロ経済学』中央経済社</p> <p>指定図書：高橋・鈴木『超入門経済学』ミネルバ書房 拙著『貿易と金融の経済理論』中央経済社</p> <p>教科書は丸善雄松堂、Amazon、楽天市場で購入できます。特に『私大文系のミクロ経済学』はAmazon及び楽天KOBOにおいて電子書籍として利用可能であり、おすすめです。教科書及び指定図書はAmazon等で購入可能です。</p>
履修上の留意点	<p>遠隔会議システムを使う予定であるのでwifi環境が必要で有り、可能であるならば、タブレットあるいはノートパソコンがあった方が望ましい。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EC208
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC020800
講義名	国際経済学II
担当者名	高橋 知也
開講情報	春期 木曜日 2時限 552教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C

備考

科目の趣旨	経済のグローバル化が進むなかで、財やサービス、ヒト、企業が世界を移動するだけでなく、マネーが世界中を駆け巡る状況が発生している。このような現状を踏まえ、国際経済学の主要な分野である国際金融（国際マクロ経済学）について基本的な内容（為替レートはどのように決まるのか、景気対策には何が重要なのか等）を講義し、グローバル化が進む日本経済の現状を考察することを目的とする。
授業の内容	急激な変貌を遂げる国際経済の世界を理解するために経済学の原理は必要不可欠です。国際経済学はいろいろな国を理解することと誤解している人も多いですが、重要な対象は我が国経済です。日本経済は国境を越え、グローバル経済の中で活動しており、貿易、企業の海外進出、資金の国際移動、人の国際移動等を通じて我が国経済は国際経済の荒波の中で活動しており、その活動を理解し、分析することが国際経済学の目的と考えることが出来ます。 木曜日の授業は国際経済の分野の中で国際マクロ経済学の基礎的な内容を講義します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本講義を通じて国際経済の分野のなかで国際マクロ経済学の基礎を学ぶことが出来るだけでなく、現在、我が国が抱える国際経済に関する諸問題、例えば日本企業の海外進出に伴う産業の空洞化、人口減少が進む中で外国人労働者の流入問題など、国際経済に関する問題は多数存在します。また、海外諸国から指摘される“失われた30年問題”と高齢化社会が招く日本経済の崩壊そして新型コロナウイルス後の日本と世界経済がどのように変化していくのかを考えることが出来るようになります。
授業形態	講義
授業方法	授業方法是对面の授業が主となる。授業支援システム（manaba）、遠隔会議システム（Zoom）等を用いた授業も状況に応じて行う可能性がある。教材の一部はYouTube上にアップされており、それも参照することが必要となる。事前に配布された資料や指定された教科書類を読んでいることを前提として、教室での講義の受講という形式で実施する。
	【第1回】戦後の通貨制度の歴史：なぜ1ドル360円となったのか？ 内容：ブレトンウッズ体制のもとで、金・ドル本位制が実施され、その中で各国の為替レートの水準が決まった。その歴史的流れについて解説する。 テキスト：『超入門経済学』第8章
	【第2回】国民経済計算とマクロ経済指標：GDP,三面等価、失業率、金利、為替レート 内容：内容：国内概念と国民概念の違い、実質と名目の違いを学び、国内総所得と国内総支出が事後的に等しい三面等価について学ぶ。 テキスト：『超入門経済学』第4章 『私大文系のマクロ経済学』第1章
	【第3回】国際収支を見ると日本の将来がわかる（誰もが語らない高齢化社会の本質的問

題) : 貿易収支、経常収支、資本収支、日本経済と国際収支、国際収支の天井、ISバラン
スアプローチ、双子の赤字

【第4回】1950年代、60年代の日本を考えるためのツール：貿易乗数、財政政策と貿易収
支、国際収支の天井問題の理論分析

【第5回】なぜ日本は変動レート制を選んだのか？間違いだらけの変動レート制への道：
雇用隔離効果

【第6回】現代の国際金融市場を考える：短期金融市場、長期金融市場、金融政策、グロ
ーバリゼーション

【第7回】閉鎖経済下における国内所得と金利の決定：財政金融政策の効果、流動性の罫
内容：ケインズ流のIS-LM分析を通じて、金利と国内所得の同時決定を考え、財政金融政策
の効果を講義する。

テキスト：『私大文系のマクロ経済学』第4章

課題：IS-LM分析の計算問題を解く。

【第8回】不完全な資本移動のもとでの財政金融政策の効果
内容：資本移動において完全な資本移動と不完全な資本移動の違いを講義する。

【第9回】現代経済を考える国際マクロモデルの基礎：マンデルフレミングモデル(小
国)、完全な資本移動、期待

内容：マンデル・フレミングモデルを用いて財政金融政策の効果を講義する。

テキスト：『超入門経済学』第9章
『私大文系のマクロ経済学』第7章

課題：小淵・森内閣のもとでの財政政策がなぜ失敗し、小泉内閣のもとでの金融政策はな
ぜ成功したのかを考える。

【第10回】お金は世界を巡る：金利裁定と為替レート
内容：アセットアプローチによる為替レート決定について講義する。

【第11回】購買力平価とマネタリーアプローチ
内容：長期の為替理論である購買力平価の考え方を紹介し、現実面における妥当性は低い
が、為替レートの長期の変化を考えるために有効であることを解説する。

【第12回】固定レート制
内容：我が国もかつては固定レート制を採用していたが、90年代まではアジアの多くの
国々がドルペッグ制というドルに対して本国通貨を固定することが行われていた。これが
90年代末のアジアの通貨危機をもたらしたが、その原因を講義する。

【第13回】まとめ(理解度確認と解説)
授業全体を振り返り、その理解度を確認する作業を行い、質疑応答を行う。

事前・事後
学修に必要
な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

事前に指定された教科書及びmanabaにアップされた講義ノートを通読し、疑問点を持って
講義に臨むことが望ましい。授業の理解のために宿題等も必ず自力で解くことが望まし
い。各自しっかり取り組み、分からないことがある場合はZoomによる生質問会及びメール
で問い合わせること。
事後的な学習はmanaba上にアップされる問題を確実に解き、指定された参考書等を読むこ
とで、その分野のへの理解度を高めることが望まれる。

成績評価方法・基準	<p>木曜日の授業では国際収支に対する基本的な理解から始まり、開放経済における基本的な財政金融施策の効果を理解しているか、さらに購買力平価の考え方、固定レート制の経済問題を理解しているかが問われる。</p> <p>数回実施されるミニテストと最終試験：80%、平常点：20%</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書と参考書 教科書：岩本武和『国際経済学 国際金融編』 ミネルヴァ書房 拙著『私大文系のマクロ経済学』中央経済社</p> <p>指定図書：高橋・鈴木『超入門経済学』ミネルバ書房 拙著『貿易と金融の経済理論』中央経済社</p> <p>教科書は丸善雄松堂、Amazon、楽天市場で購入できます。特に『私大文系のミクロ経済学』はAmazon及び楽天KOBOにおいて電子書籍として利用可能であり、おすすめです。教科書及び指定図書はAmazon等で購入可能です。</p>
履修上の留意点	<p>遠隔会議システムを使う予定であるのでwifi環境が必要で有り、可能であるならば、タブレットあるいはノートパソコンがあった方が望ましい。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EC209
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC020900
講義名	公共経済学I
担当者名	小寺 剛
開講情報	春期 火曜日 2時限 7311教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考

科目の趣旨	公共経済学は、公的部門（政府）が行う経済活動について考察する経済学の一分野である。政府の活動は多岐にわたるので、様々なトピックがその対象となる。この授業では、政府が税金や借金をすることでお金を集め、様々な経済活動を行うことの意義や各政策の役割についてミクロ経済学の分析手法に基づいて理解することを目的とする。また、経済・社会的な時事問題に関する知識の習得も重要な目標となる。公共経済学Iでは、ミクロ経済学の基礎の復習および税金や国債の経済学的分析を学習する。
授業の内容	公共経済学は、公的部門（政府）が行う経済活動について考察する経済学の一分野である。政府の活動は多岐にわたるので、様々なトピックがその対象となる。この授業では、政府が税金や借金をすることでお金を集め、様々な経済活動を行うことの意義についてミクロ経済学の分析手法に基づいて理解することを目的とする。また、経済・社会的な時事問題に関する知識の習得も重要な目標となる。
科目の到達目標 （理解のレベル）	税金、財政問題などについて制度・現象に関する基礎的な知識とともに、経済学的な分析手法とその結果について理解し、これらのテーマについて自分で考える力の基礎を身につけることを目標とする。
授業形態	講義
授業方法	この授業は原則、対面の講義形式（講義資料のスライドと板書を併用）で行う。ただし、予期せぬ事態が生じた場合はオンラインでの実施もありうる。講義資料の配布や練習問題の実施・提出はmanabaを通じて行う。
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション 講義の進め方や公共経済学の概要、分析方法について解説する</p> <p>【第2回】ミクロ経済学の基礎(1)：効用と需要① 消費者の経済学的な位置づけ、基本的な概念について解説する</p> <p>【第3回】ミクロ経済学の基礎(2)：効用と需要② 消費者の効用最大化問題とその解としての需要の数学的導出について解説する</p> <p>【第4回】ミクロ経済学の基礎(3)：需要曲線と消費者余剰 需要関数と需要曲線の関係や消費者余剰について解説する</p> <p>【第5回】ミクロ経済学の基礎(4)：生産と供給 生産者の利潤最大化問題とその解としての供給について解説する</p> <p>【第6回】ミクロ経済学の基礎(5)：供給曲線と生産者余剰 供給関数と供給曲線の関係や生産者余剰について解説する</p> <p>【第7回】ミクロ経済学の基礎(6)：市場均衡と総余剰</p>

完全競争市場の均衡や総余剰について解説する

【第8回】ミクロ経済学の基礎(7)：市場均衡と政府の役割
これまでの議論にもとづいて政府が果たすべき役割について解説する

【第9回】課税の理論(1)：税の歪み
課税が社会に与える影響について余剰分析に基づいて解説する

【第10回】課税の理論(2)：租税回避と税の帰着
税の最終的負担者について解説する

【第11回】課税の理論(3)：価格弾力性と最適課税論
価格弾力性の概念やあるべき税制について解説する

【第12回】公債の理論(1)：リカードの等価定理
公債発行に関するリカードの等価定理について解説する

【第13回】公債の理論(2)：等価定理の妥当性
等価定理の前提を整理し、それらが満たされない状況について解説する

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

事前学修としてmanaba上の講義資料を読んでおくことが推奨される。また事後学修として、原則毎回の講義後にmanaba上で課される小テストを解き、しっかり復習することが望まれる。特に小テストは評価の50%を占めるので必ず毎回提出すること。

成績評価方法・基準

毎回の課題（manaba上の小テスト）：50%
期末テスト：50%

実施の詳細については授業中に指示する。

課題（試験
やレポート
等）について
のフィードバック
方法

本授業での課題の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指
定図書

教科書：特になし（講義資料を配布）
指定図書：講義中に適宜指示する

履修上の留
意点

ミクロ経済学や経済学基礎数学を履修していることが望ましい。

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC210
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC021000
講義名	公共経済学II
担当者名	小寺 剛
開講情報	秋期 火曜日 2時限 7311教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考

科目の趣旨	公共経済学は、公的部門（政府）が行う経済活動について考察する経済学の一分野である。政府の活動は多岐にわたるので、様々なトピックがその対象となる。この授業では、政府が税金や借金をすることでお金を集め、様々な経済活動を行うことの意義や各政策の役割についてミクロ経済学の分析手法に基づいて理解することを目的とする。また、経済・社会的な時事問題に関する知識の習得も重要な目標となる。公共経済学IIでは、独占・寡占、外部性、公共財、民主的な政策決定の経済学的分析を学習する。
授業の内容	公共経済学は、公的部門（政府）が行う経済活動について考察する経済学の一分野である。政府の活動は多岐にわたるので、様々なトピックがその対象となる。この授業では、公共経済学Iの学習内容を踏まえたうえで、政府が様々な経済活動を行うことの意義や各政策の役割についてミクロ経済学の分析手法に基づいて理解することを目的とする。また、経済・社会的な時事問題に関する知識の習得も重要な目標となる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	独占、外部性、公共財、年金などについて制度・現象に関する基礎的な知識とともに、経済学的な分析手法とその結果について理解し、これらのテーマについて自分で考える力の基礎を身につけることを目標とする。
授業形態	講義
授業方法	この授業は原則、対面の講義形式（講義資料のスライドと板書を併用）で行う。ただし、予期せぬ事態が生じた場合はオンラインでの実施もありうる。講義資料の配布や練習問題の実施・提出はmanabaを通じて行う。
授業計画	<p>【第1回】独占（1）：独占の弊害 独占市場の分析や独占の弊害について解説する</p> <p>【第2回】ミクロ経済学の基礎：ゲーム理論 戦略形ゲームやナッシュ均衡について解説する</p> <p>【第3回】独占（2）：寡占市場 寡占市場の代表的分析であるクールノーモデルについて解説する</p> <p>【第4回】独占（3）：自然独占 独占の一形態である自然独占について解説する</p> <p>【第5回】外部性（1）：外部性の影響 外部性の定義やその余剰分析について解説する</p> <p>【第6回】外部性（2）：外部性への対策 外部性に対する税金・補助金の効果について解説する</p> <p>【第7回】公共財(1)：定義と最適供給</p>

	<p>公共財の性質やその最適供給条件について解説する</p> <p>【第8回】公共財(2)：公共財供給のメカニズム 公共財の自発的供給の可能性や最適供給のためのメカニズムについて解説する</p> <p>【第9回】政策の政治的決定(1)：多数決 多数決の様々なルールや関連する諸概念について解説する</p> <p>【第10回】政策の政治的決定(2)：中位投票者定理 2大政党間の選挙の分析およびその結果としての中位投票者定理について解説する</p> <p>【第11回】政策の政治的決定(3)：民主主義の効率性 民主主義による政策決定が効率的かどうかについて解説する</p> <p>【第12回】公的年金(1)：目的と制度 社会保障の意義や日本の公的年金制度について解説する</p> <p>【第13回】公的年金(2)：年金制度の分析 年金制度の経済学的な分析について解説する</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前学修としてmanaba上の講義資料を読んでおくことが推奨される。また事後学修として、原則毎回の講義後にmanaba上で課される小テストを解き、しっかり復習することが望まれる。特に小テストは評価の50%を占めるので必ず毎回提出すること。
成績評価方法・基準	<p>毎回の課題（manaba上の小テスト）：50%</p> <p>期末テスト：50%</p> <p>実施の詳細については授業中に指示する。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書：特になし（講義資料を配布）</p> <p>指定図書：講義中に適宜指示する</p>
履修上の留意点	ミクロ経済学や経済学基礎数学を履修していることが望ましい。
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC213
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC021300
講義名	環境経済学I
担当者名	信澤 由之
開講情報	春期 月曜日 2時限 223教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考

科目の趣旨	環境問題とその対策について経済学の視点から考察する上で、本科目では主に①地球環境問題の発生要因、②問題解決のための方策、③環境負荷の少ない経済システムの構築、④私たちの生活のあり方などについて焦点を当てる。環境問題の現状と課題、環境問題に関連深い公共財や外部性の問題、環境評価法、環境政策における経済的手段と非経済的手段との比較、欧米の環境政策、資源問題、ゼロ・エミッションと企業の取り組み、持続可能な発展への課題等の諸課題のなかから、「環境経済学I」ではいくつかの内容を取り上げて講義する。
授業の内容	春学期は、環境破壊の現状と、環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗を中心に生活環境問題と、エネルギー問題、地球環境問題について取り上げ、環境問題をベースに外部不経済だけでなく、独占の問題や、外部経済、公共財、情報の非対称性に関する事例を用いて考える。また、環境政策として外部不経済の内部化、すなわち環境負荷軽減を目的とした政策手法の規制的手法と経済的手法を理論的に把握する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	履修生が、環境破壊のメカニズムを経済学的に理解し、市場の失敗と環境問題の関係について説明できるようにすることを目標とする。秋学期の到達目標は、SDGs及び環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、廃棄物問題と資源問題、環境技術を普及策を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた取り組みを考えられるようにしていく。環境経済学では、「環境意識」を持ち、地球環境問題や公害問題、身近な環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。
授業形態	講義
授業方法	毎回、パワーポイントの配布資料を用いて講義する。資料は、箇条書きのため講義の内容をメモし、文章にするようにしてください。また、環境問題に関する最新の情報を提供するため追加資料や、環境問題の理解度を高めるため映像資料を用いることもあります。配布資料は、manabaを用いて毎回公開する。講義には、必ず、配布資料を持参してください。質問は、メールで受け付けます。同一内容の質問が複数ある場合や、重要な内容は、次回講義で補足します。
	(春学期)
	第1回 ガイダンス／環境破壊の現状－9つの地球環境問題とは何か、その問題がもたらす影響は何かを考える
	第2回 環境破壊のメカニズム－環境はどのようにして破壊されるのか、公害や地球環境問題、生活環境問題について事例を用いて考える
	第3回 環境に関する費用－環境問題を被害及び抑制と防止する費用についてミクロ経済学の理論を用いて考える

授業計画	<p>第4回 市場メカニズムと市場の失敗-市場は万能なのか、市場が失敗する場合、どのようなケースがあるのか、事例を用いて考える</p> <p>第5回 市場の失敗と環境問題 1 -外部不経済と情報の非対称性から環境問題を考える</p> <p>第6回 地球温暖化とエネルギー資源 -エネルギーと温暖化の関係と、自然エネルギーによる温暖化政策について考える</p> <p>第7回 市場の失敗と環境問題 2 -再生可能エネルギー固定価格買取制度について独占の視点から制度上の問題を考える</p> <p>第8回 日本の原子力政策 -日本の原子力政策の経緯と、福島第一原発事故後、叫ばれるようになった「原発ゼロ」は実現可能か？それを可能にするための方法を考える</p> <p>第9回 市場の失敗と環境問題 3 -地球公共財とグローバルコモンズについて、コモンズの悲劇から考える</p> <p>第10回 放射性廃棄物の処分について -10万年後の安全な処分方法とは何か、使用済み核燃料の処分について世代間の問題から考える</p> <p>第11回 外部不経済の理論的考察 -環境問題をミクロ経済学の理論を用いて考える</p> <p>第12回 環境汚染の責任と費用負担 -環境汚染の費用は誰が負担するのか？汚染者負担原則を中心に考える</p> <p>第13回 外部不経済の内部化のための方法 -外部不経済を発生させないための規制的手法と経済的手法の理論的に考察する</p> <p>※環境問題を扱うため授業計画は予定であり、変更することがあります。また、積極的に最新の情報や事例を取り入れていきます。</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 配布資料の中で、理解できなかった用語等は調べて整理しておくこと ② シラバスで取り上げている個々の環境問題について、どのような政策あるいは、対策を実施することが望ましいか、自分自身の考えをまとめておくこと ③ 普段から新聞や雑誌などを読み、各自で最新の環境問題について調べること ④ 配布資料・映像資料などの内容をベースに整理し、文章化し、その内容を理解し、説明できるようにしておくこと ⑤ 配布資料の内容を、文章に整理すること ⑥ 小テストの問題を配布資料から復習しておくこと <p>大学設置基準では、1単位修得に必要な時間数は45時間と定められています。事前・事後学習は、「科目の到達目標(理解のレベル)」を達成するために、しっかりと取り組んでください。分からないことがある場合は、メールで問い合わせてください。</p>
成績評価方法・基準	<p>成績の評価方法は、期末試験（論述式）と小テストなどで、評価します。期末試験では、講義内容の理解度と、環境意識や問題提起とその解決のための考える力を評価します。小テストなどについては、事後学習で配布資料や映像資料を文章にしているかを把握し、その内容を理解しているかを評価していきます。</p> <p>成績の評価基準は、 期末試験 = 70%</p>

	小テスト=30% とします。
課題（試験 やレポート 等）につい てのフィー ドバック方 法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指 定図書	教科書：使用しない。 参考書：質問があれば、その都度助言する。
履修上の留 意点	① 関連する科目として、ミクロ経済学・公共経済学がある ② 配布資料や映像資料の内容を整理し、文章にまとめる ③ ②でまとめた文章を理解する ④ 補足として、ミクロ経済学、公共経済学、環境経済学、環境問題、エネルギー問題、資源問題、廃棄物問題など授業に関連する本を読み、理解を深める
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC214
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC021400
講義名	環境経済学II
担当者名	信澤 由之
開講情報	秋期 月曜日 2時限 223教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考

科目の趣旨	環境問題とその対策について経済学の視点から考察する上で、本科目では主に①地球環境問題の発生要因、②問題解決のための方策、③環境負荷の少ない経済システムの構築、④私たちの生活のあり方などについて焦点を当てる。環境問題の現状と課題、環境問題に関連深い公共財や外部性の問題、環境評価法、環境政策における経済的手段と非経済的手段との比較、欧米の環境政策、資源問題、ゼロ・エミッションと企業の取り組み、持続可能な発展への課題等の諸課題のなかから、「環境経済学I」で扱わなかった内容を取り上げて講義する。
授業の内容	廃棄物問題と資源問題、環境技術を普及策を把握した上で、経済学の視点から分析する。SDGsの観点から環境問題と貧困や福祉、教育、つくる責任とつかう責任についても取り上げる。授業を通じて、世代間の問題と南北問題の視点から地球環境問題や公害問題、身近な環境問題を取り上げ、持続可能な開発実現に向けた取り組みについても考える。
科目の到達目標 (理解のレベル)	到達目標は、履修生が、環境破壊のメカニズムを経済学的に理解し、市場の失敗と環境問題の関係について説明できるようにすることを目標とする。秋学期の到達目標は、SDGs及び環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、廃棄物問題と資源問題、環境技術を普及策を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた取り組みを考えられるようにしていく。環境経済学では、「環境意識」を持ち、地球環境問題や公害問題、身近な環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。
授業形態	講義
授業方法	毎回、パワーポイントの配布資料を用いて講義する。資料は、箇条書きのため講義の内容をメモし、文章にするようにしてください。また、環境問題に関する最新の情報を提供するため追加資料や、環境問題の理解度を高めるため映像資料を用いることもあります。配布資料は、manabaを用いて毎回公開する。講義には、必ず、配布資料を持参してください。質問は、メールで受け付けます。同一内容の質問が複数ある場合や、重要な内容は、次回講義で補足します。
	第1回 SGD s について－持続可能な開発と17の目標とは何か？環境問題と関連する内容を取り上げ、実現可能性を考える
	第2回 公害問題による健康被害－世界の水俣病問題と水俣条約で何が変わるのか、日本における水銀リサイクルの問題と水銀の処分について考える
	第3回 コモنزの悲劇と資源問題－資源は、誰のものか？水及び生物を例に考える
	第4回 廃棄物問題とその責任－ごみと環境問題、その責任は誰にあるのか、廃棄物政策の原則からかんがえる
	第5回 家庭ごみ削減施策－家庭ごみ有料化と併用施策について、その効果を理論的に考える

<p>授業計画</p>	<p>第6回 先進国における食品ロス問題－食品ロスは何が問題か？先進国と途上国の問題とは？食品系廃棄物と貧困問題の関係やフードバンクから環境と福祉の関係について考える</p> <p>第7回 廃プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題－マイクロプラスチックによる汚染とは何か、プラスチック削減策としての容器包装リサイクル法とレジ袋有料化の効果について考える</p> <p>第8回 産業廃棄物削減策－先進的な企業のゼロエミッション対策と税を用いた産業廃棄物の流入を防ぐための自治体の取り組みとその効果について考える</p> <p>第9回 循環型社会とSDGs－ごみ減量、リサイクル活動における環境教育と障がい者福祉の観点から考える</p> <p>第10回 ヒートアイランド現象とその政策－都市の温暖化と都市の街づくり政策について経済的手法と自主的取り組みの事例から考える</p> <p>第11回 森林保全と森林環境税－日本の林業はなぜ衰退したのか、森林を守る方法として森林環境税など事例を用いて考える</p> <p>第12回 野生生物の減少と生物多様性保全－生物を守ることと、生物多様性保全の意義について考える</p> <p>第13回 途上国における環境問題－貧困が、途上国の環境破壊をどのようにしてもたらしめているのか？先進国との関係は何か？先進国ができることを考える</p> <p>※環境問題を扱うため授業計画は予定であり、変更することがあります。また、積極的に最新の情報や事例を取り入れていきます。</p>
<p>事前・事後学修に必要な時間</p>	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
<p>事前・事後学修の内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 配布資料の中で、理解できなかった用語等は調べて整理しておくこと ② シラバスで取り上げている個々の環境問題について、どのような政策あるいは、対策を実施することが望ましいか、自分自身の考えをまとめておくこと ③ 普段から新聞や雑誌などを読み、各自で最新の環境問題について調べること ④ 配布資料・映像資料などの内容をベースに整理し、文章化し、その内容を理解し、説明できるようにしておくこと ⑤ 配布資料の内容を、文章に整理すること ⑥ 小テストの問題を配布資料から復習しておくこと <p>大学設置基準では、1単位修得に必要な時間数は45時間と定められています。事前・事後学習は、「科目の到達目標(理解のレベル)」を達成するために、しっかりと取り組んでください。分からないことがある場合は、メールで問い合わせてください。</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>成績の評価方法は、春学期と秋学期に実施する期末試験（論述式）と小テストなど（論述式等）で、評価します。期末試験では、講義内容の理解度と、環境意識や問題提起とその解決のための考える力を評価します。小テストなどについては、事後学習で配布資料や映像資料を文章にしているかを把握し、その内容を理解しているかを評価していきます。</p> <p>成績の評価基準は、 期末試験＝70% 小テスト＝30% とします。</p>

課題（試験
やレポート
等）につい
てのフィー
ドバック方
法

本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指
定図書

教科書：使用しない。

参考書：質問があれば、その都度助言する。

履修上の留
意点

① 関連する科目として、ミクロ経済学・公共経済学がある

② 配布資料や映像資料の内容を整理し、文章にまとめる

③ ②でまとめた文章を理解する

④ 補足として、ミクロ経済学、公共経済学、環境経済学、環境問題、エネルギー問題、資源問題、廃棄物問題など授業に関連する本を読み、理解を深める

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC215
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC021500
講義名	社会保障論I
担当者名	権丈 英子
開講情報	春期 木曜日 2時限 544教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C

備考

科目の趣旨	社会保障という所得再分配政策の意義・役割について学習するとともに、社会保障にとって重要な高齢化、少子化などの人口構造の変化やその要因について基礎的な理論を学ぶ。さらに、社会保障を構成するさまざまな制度、すなわち、子育て支援、公的年金、医療保険、介護保険、雇用保険、障害者福祉、公的扶助（生活保護）などについて、それぞれの制度の意義、現状、そして改革の論点を考察する。
授業の内容	社会保障の機能および日本の制度に関する概略を学んだのち、社会保障にとって重要な高齢化、少子化等の人口構造の変化やその要因について学ぶ。その後、社会保障を構成する様々な制度、すなわち、子育て支援（家族政策）、公的年金（制度や経済や雇用との関わり）、雇用対策（雇用保険や非正規雇用の問題への対応）などについて、それぞれの制度の意義、現状、そして改革の論点を考察する。 主に、日本の制度について講義していくが、折に触れて、類似の問題を抱える他の先進国の例を紹介して国際比較を行うことで、理解が深まるようにする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	①社会保障に関して経済学的視点でとらえることができる。 ②日本の人口構造の変化やその要因について説明することができる。 ③日本の社会保障の各制度の意義と仕組みを説明することができる。 ④日本の社会保障に関する歴史的な経緯や国際比較から見た特徴を説明することができる。 ⑤日本の社会保障に関する課題を理解し、現在行われている議論について自分の考えを持つことができる。
授業形態	講義
授業方法	講義形式で行う。responを活用するなどして、できるだけ受講生に意見を出してもらい、双方向型の要素を取り入れる。また、授業の最後にmanabaを通じて授業内容に関する小テスト（確認問題）を行う。
授業計画	【第1回】 社会保障とは？ この講義の進め方、社会保障とは？ 日本の社会保障の大きさ 【第2回】 人口構造の変化 人口の将来予測、人口高齢化の要因、戦後日本の出生率の動向 【第3回】 出生率と出産タイミング 出生率指標、結婚の変化、出生率と出産タイミング 【第4回】 少子化の経済分析 子供を持つことの費用と便益、少子化はなぜ起こるのか？ 【第5回】 少子化への政策対応 日本の少子化対策の歴史、働く女性が増えると出生率は下がるのか？ 【第6回】 日本と欧米の子育て支援策 福祉国家の3類型と子育て支援策（家族政策） 【第7回】 高齢者の生活保障 高齢者世帯の所得、公的年金の役割 【第8回】 公的年金制度の概要

	<p>保険の仕組みと社会保険、公的年金制度の概要</p> <p>【第9回】公的年金の歴史</p> <p>公的年金制度の歴史、2004年年金改革</p> <p>【第10回】公的年金制度の改革</p> <p>2019年財政検証、被用者保険の適用拡大</p> <p>【第11回】高齢期雇用と年金</p> <p>女性と年金、Work Longerへの施策</p> <p>【第12回】雇用対策とフレキシキュリティ</p> <p>リーマンショックとコロナ下の非正規雇用、フレキシキュリティ（柔軟性と保障）</p> <p>【第13回】雇用保険制度の概要</p> <p>雇用調整助成金、失業給付、求職者支援制度</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>事前にmanabaを通じて資料を配布するので、授業前にある程度目を通しておくこと。授業終了後は、manabaの小テストや、配布資料に示している練習問題を活用し復習を行うこと。</p> <p>社会保障は、新聞・雑誌等でも毎日のようによく取り上げられるテーマとなっている。そうした関連記事に関心を持って目を通すようにしてほしい。</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験50%と平常点50%とする。</p> <p>平常点は小テスト（+授業内レポート）40%、responの質問への回答10%。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>（指定図書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権丈善一・権丈英子『もっと気になる社会保障』勁草書房 ・権丈善一『ちょっと気になる社会保障v3』勁草書房 ・権丈善一『ちょっと気になる医療と介護（増補版）』勁草書房 ・権丈英子『ちょっと気になる「働き方」の話（第2版）』勁草書房 <p>（参考文献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい ・Nicholas Barr, Economics of the Welfare State, Oxford UP.
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. manabaを通じて資料配付や課題提出を行う。 2. 1回目の授業前にmanabaを確認のこと。
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC216
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC021600
講義名	社会保障論II
担当者名	権丈 英子
開講情報	秋期 木曜日 2時限 544教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C

備考

科目の趣旨	「社会保障論I」を踏まえて、社会保障を構成するさまざまな制度、すなわち、子育て支援、公的年金、医療保険、介護保険、雇用保険、障害者福祉、公的扶助（生活保護）などについて、引き続き学習する。おもに日本の制度について講義するが、類似の問題を抱える他の先進国の事例を学び国際比較を行うことで、理解を深める。
授業の内容	社会保障の各種制度について学ぶ。医療保障（医療保険や医療提供体制）、介護保障（介護保険等）、公的扶助（生活保護）、障害者福祉などについて、それぞれの制度の意義、現状、そして改革の論点を考察する。 主に、日本の制度について講義していくが、折に触れて、類似の問題を抱える他の先進国の例を紹介して国際比較を行うことで、理解が深まるようにする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	①社会保障に関して経済学的視点でとらえることができる。 ②日本の人口構造の変化やその要因について説明することができる。 ③日本の社会保障の各制度の意義と仕組みを説明することができる。 ④日本の社会保障に関する歴史的な経緯や国際比較から見た特徴を説明することができる。 ⑤日本の社会保障に関する課題を理解し、現在行われている議論について自分の考えを持つことができる。
授業形態	講義
授業方法	講義形式で行う。responを活用するなどして、できるだけ受講生に意見を出してもらい、双方向型の要素を取り入れる。また、授業の最後にmanabaを通じて授業内容に関する小テスト（確認問題）を行う。
授業計画	<p>【第1回】日本の医療の特徴は？ 日本の医療を評価する、公的医療保険制度の仕組みと歴史</p> <p>【第2回】医療サービスの特性 医療サービスの特性と医療需要、社会サービスにおける公私の役割を考える</p> <p>【第3回】医療サービスの価格 医療サービス費用の支払い方式、診療報酬の仕組み</p> <p>【第4回】医療提供体制 日本の医療提供体制の特徴、現在行われている改革</p> <p>【第5回】医療制度の課題と医師の働き方 コロナ下の医療制度の課題と議論、医師の働き方改革</p> <p>【第6回】介護保険制度の成立 高齢者保健医療政策の流れと介護保険の成立</p> <p>【第7回】介護保険制度の現状と課題 介護保険制度の概要、介護保険の利用状況</p> <p>【第8回】日本の介護保障の課題 介護人材、認知症ケア</p> <p>【第9回】生活保護制度の概要 生活保護制度の概要、生活保護の利用状況</p>

【第10回】 公的扶助のあり方と自立支援
公的扶助の給付のあり方とは？ 生活困窮者自立支援制度
【第11回】 障害者福祉の概要
日本の障害者数、障害者福祉に関する思想と歴史
【第12回】 障害者福祉改革と障害者雇用
最近の障害者福祉改革、障害者雇用
【第13回】 社会保障財政とまとめ
社会保障を財政面から考える、これまでのまとめ

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

事前にmanabaを通じて資料を配布するので、授業前にある程度目を通しておくこと。授業終了後は、manabaの小テストや、配布資料に示している練習問題を活用し復習を行うこと。
社会保障は、新聞・雑誌等でも毎日のようによく取り上げられるテーマとなっている。そうした関連記事に関心を持って目を通すようにしてほしい。

成績評価方法・基準

定期試験50%と平常点50%とする。
平常点は小テスト（+授業内レポート）40%、responの質問への回答10%。

課題（試験
やレポート
等）について
のフィードバック
方法

本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指
定図書

(指定図書)
・権丈善一・権丈英子『もっと気になる社会保障』勁草書房
・権丈善一『ちょっと気になる社会保障v3』勁草書房
・権丈善一『ちょっと気になる医療と介護（増補版）』勁草書房
・権丈英子『ちょっと気になる「働き方」の話（第2版）』勁草書房
(参考文献)
・厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい
・Nicholas Barr, Economics of the Welfare State, Oxford UP.

履修上の留意点

1. manabaを通じて資料配付や課題提出を行う。
2. 1回目の授業前にmanabaを確認のこと。

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC217
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC021700
講義名	日本経済論I
担当者名	茨木 秀行
開講情報	春期 金曜日 3時限 511教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。
科目の趣旨	日本経済論では、日本経済の各分野の基本的な仕組みや事実関係を理解した上で、経済成長の低迷、地球温暖化やデジタル化・グローバル化への対応、少子化やそれに伴う社会保障・労働市場の課題など日本経済が直面している諸課題について理解するための知識を学修する。日本経済論Iでは、主に景気・物価動向や長期的な経済成長動向などの課題について学修する。
授業の内容	この授業では、日本経済の様々な分野における基本的な仕組みや事実関係を把握し、現実の経済社会が直面している課題について理解を深めることに重点を置いて学習を行う。具体的な内容としては、まず、教科書（茨木（2025））に沿って、日本経済の長期的な発展過程と合わせて、資本調達・雇用・社会保障・イノベーションといった主要な経済活動の調整様式としての日本的な経済システムの特徴とその形成過程を学習する。その上で、これらの経済活動における現状と課題について理解する。担当教員は、内閣府での実務経験を十分に授業に活かしつつ、企業や政府の実際の取組を踏まえて、実践的な教育を行う。
科目の到達目標 （理解のレベル）	日本の経済システム及び主要な経済関連分野における政策課題を理解するための基本的な知識や視点を身に付ける。あわせて、経済に関する基本的な統計データ・資料の見方に馴れるとともに、日ごろのニュースや新聞・雑誌等の経済関連記事の内容を適切に理解し評価できる能力を身に付ける。これらの習得により、日本経済の課題について、問題の所在や解決策の方向性について、自分の意見を構築する能力を身に付ける。
授業形態	講義
授業方法	基本的に講義形式で授業を行う。教科書（茨木（2025））や授業スライドに基づき、各回で取り上げる課題について、基礎的な知識の解説、現状・動向・制度についての説明、関連する経済統計データや資料の見方の指導を行うとともに、現在直面している課題について、その背景や考え方を説明する。毎回の講義で授業の理解度を測るための簡単な課題を課す。期末には学期全体を総括した復習と、理解が不足している点についての補足を行う。
授業計画	<p>【第1回】 授業の進め方や授業を受けるにあたってのガイダンス、日本経済の課題</p> <p>【第2回】 経済システムの概要：資本主義の発展と国別の多様性</p> <p>【第3回】 日本的な経済システムの特徴：資本・雇用・社会保障・イノベーション</p> <p>【第4回】 経済成長のメカニズム</p> <p>【第5回】 日本的な経済システムの形成過程①：雇用、企業制度</p> <p>【第6回】 日本的な経済システムの形成過程②：社会保障、イノベーション</p> <p>【第7回】 高度成長の終焉とバブル経済の生成・崩壊</p>

	<p>【第8回】労働市場の現状と課題①：雇用の非正規化</p> <p>【第9回】労働市場の現状と課題②：女性・高齢者の労働参加、働き方改革</p> <p>【第10回】企業部門の現状と課題：企業統治、イノベーション</p> <p>【第11回】社会保障の現状と課題：年金</p> <p>【第12回】社会保障の現状と課題：医療・介護</p> <p>【第13回】全体の振り返り</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>事前学習：事前に授業スライドおよび教科書等に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。また、日ごろから、ニュースや新聞・雑誌等の経済記事に接し、経済の最近の動向を把握するよう努めること。</p> <p>事後学習：毎回の講義の内容については、教科書等も活用しながら、各自でノートを作成するなど、整理を行うこと。</p>
成績評価方法・基準	毎回の講義で出される課題への取組など平常点50%、期末の課題50%で評価する。ただし、講義での課題等への取組がほとんどなされない場合には、期末課題の成績によらず、成績評価の対象とならない場合がある。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>（教科書）</p> <p>茨木秀行著「日本的経済システムの課題と展望—カイシャ資本主義のゆくえ—」、創成社、2025年1月発行、ISBN978-4-7944-3255-1、2,200円＋税</p> <p>（参考文献）</p> <p>大守隆・増島稔編「日本経済読本第23版」、東洋経済新報社、2025年1月発行、ISBN978-4-492-10040-0、2600円＋税</p> <p>小峰隆夫、村田啓子「最新日本経済入門第6版」日本評論社、2020年、ISBN978-4-535-55902-8、2500円＋税</p> <p>内閣府「経済財政白書」各年版 https://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html</p>
履修上の留意点	<p>授業スライドの閲覧や毎回の課題への取組等のためには、パソコンやタブレット端末などを用意することが望ましい</p> <p>この講義は、経済学の初学者でも履修可能なように構成されているが、講義の内容には、基礎的なマクロ経済学やミクロ経済学の考え方とその応用が含まれる。</p>
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EC218
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EC021800
講義名	日本経済論II
担当者名	茨木 秀行
開講情報	秋期 金曜日 3時限 511教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。
科目の趣旨	日本経済論では、日本経済の各分野の基本的な仕組みや事実関係を理解した上で、経済成長の低迷、地球温暖化やデジタル化・グローバル化への対応、少子化やそれに伴う社会保障・労働市場の課題など日本経済が直面している諸課題について理解するための知識を学修する。日本経済論IIでは、日本経済論Iでは取り上げなかった各分野の課題について学修する。
授業の内容	この授業では、日本経済の様々な分野における基本的な仕組みや事実関係を把握し、現実の経済社会が直面している課題について理解を深めることに重点を置いて学習を行う。具体的な内容としては、日本経済論Iで学習した日本的な経済性システムの特徴や各分野の課題などを踏まえた上で、貿易・投資を通じた企業活動のグローバル化、地球温暖化問題への対応、少子化問題、所得格差、財政・金融の課題など各論について、主要なポイントを学習する。担当教員は、内閣府での実務経験を十分に授業に活かしつつ、企業や政府の実際の取組を踏まえて、実践的な教育を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	日本の経済システム及び主要な経済関連分野における政策課題を理解するための基本的な知識や視点を身に付ける。あわせて、経済に関する基本的な統計データ・資料の見方に馴れるとともに、日ごろのニュースや新聞・雑誌等の経済関連記事の内容を適切に理解し評価できる能力を身に付ける。これらの習得により、日本経済の課題について、問題の所在や解決策の方向性について、自分の意見を構築する能力を身に付ける。
授業形態	講義
授業方法	基本的に講義形式で授業を行う。授業スライドに基づき、各回で取り上げる課題について、基礎的な知識の解説、現状・動向・制度についての説明、関連する経済統計データや資料の見方の指導を行うとともに、現在直面している課題について、その背景や考え方を説明する。毎回の講義で授業の理解度を測るための簡単な課題を課す。期末には学期全体を総括した復習と、理解が不足している点についての補足を行う。
授業計画	<p>【第1回】 企業活動のグローバル化：貿易投資</p> <p>【第2回】 国際収支と為替レート：国際収支・為替レートの動向</p> <p>【第3回】 グローバル化の変質</p> <p>【第4回】 地球温暖化と経済①：地球温暖化とその影響、エネルギー消費の現状</p> <p>【第5回】 地球温暖化と経済②：脱炭素化に向けた取組と経済への影響</p> <p>【第6回】 少子高齢化の現状と課題</p> <p>【第7回】 人的資本投資：教育・訓練等の現状と課題</p> <p>【第8回】 所得格差：所得格差の推移とその背景、課題</p>

	<p>【第9回】 財政の所得再分配機能：社会保障給付、税制</p> <p>【第10回】 財政の安定化機能と持続可能性</p> <p>【第11回】 金融の仕組みと家計の金融資産</p> <p>【第12回】 物価安定と金融政策</p> <p>【第13回】 全体の振り返り</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>事前学習：事前に授業スライドおよび教科書等に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。また、日ごろから、ニュースや新聞・雑誌等の経済記事に接し、経済の最近の動向を把握するよう努めること。</p> <p>事後学習：毎回の講義の内容については、教科書等も活用しながら、各自でノートを作成するなど、整理を行うこと。</p>
成績評価方法・基準	毎回の講義で出される課題への取組など平常点50%、期末の課題提出50%で評価する。ただし、講義での課題等への取組がほとんどなされない場合には、期末課題の成績によらず、成績評価の対象とならない場合がある。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>（参考文献）</p> <p>大守隆・増島稔編「日本経済読本第23版」、東洋経済新報社、2025年1月発行、ISBN978-4-492-10040-0、2600円＋税</p> <p>小峰隆夫、村田啓子「最新日本経済入門第6版」日本評論社、2020年、ISBN978-4-535-55902-8、2500円＋税</p> <p>内閣府「経済財政白書」各年版 https://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html</p>
履修上の留意点	<p>授業スライドの閲覧や毎回の課題への取組等のためには、パソコンやタブレット端末などを用意することが望ましい</p> <p>この講義は、経済学の初学者でも履修可能なように構成されているが、講義の内容には、基礎的なマクロ経済学やミクロ経済学の考え方とその応用が含まれる。</p>
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	ED205
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1ED020500
講義名	日本産業論I
担当者名	佐藤 信之
開講情報	春期 火曜日 3時限 241教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L
備考	
科目の趣旨	日本産業論では、産業分析の手法を用いることにより、我が国の産業構造の特質と発展形態や、わが国産業が直面する諸課題について理解するための知識を学修する。日本産業論Iでは、産業分析の手法や我が国の産業構造についての一般的な基礎知識を学修する。
授業の内容	産業論という科目がどのような科目であるのかを理解してもらうために、まず最初に一般論について概説を行う。その理解の上に立って、日本の産業がどのように近代化・国際化していったのかを解説する。さらに、近代日本の産業化した産業分野について議論を展開する。 授業は、一般論から初めて、続いて個別論へ講義を進めることで、日本産業の発展形態と今日抱えている課題について理解を深めてもらう。 また、業界別の過去の経緯・現状・課題について考察し、それらの業界についての、個々の学生の研究のきっかけを提供する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は、産業論に関して理解した上で、現在の日本における各産業分野の特徴と問題点を理解すること。さらに、関心を持った産業分野について、自分たちで理解を深めるとともに、その産業分野について自分なりの考えを持てるように心して勉強して欲しい。 本科目は、就職活動において重要となる、志望業界に関する業界研究へのアプローチに対してヒントを与えることも目的とする。授業で紹介する業界に関する知識だけでなく資料を集め分析する、研究アプローチに関する手法についても学びとっていただきたい。
授業形態	講義
授業方法	講義形式 100分 質疑5分 本年度は教室での対面授業を基本とし、Zoomによるリモート授業とする場合は、事前に教室で公表する。 夏休み中にも、Zoomによる課題に関する説明を実施する(任意参加)。 質問がある場合は、挙手したうえで発言すること。 連絡先 n_satoh@myad.jp
	【第1回】 日本産業論という科目について 科目の概要を紹介し、どのように勉強を進めるべきかを説明する。 講義を実施する上での機材の調整を行う。
	【第2回】 第1章 産業構造論 産業構造の変化 第2章 産業構造の高度化 産業構造論の一般的知識を概説する。
	【第3回】 第3章 日本の産業構造 産業論の一般理論の知識を基にして日本の産業構造を説明する。
	【第4回】 第4章 日本の産業組織 第5章 日本産業の特質－二重構造 産業論の視点を持って、日本における産業化のプロセスと特徴を解説する。
	【第5回】 第6章 日本産業論の特質-系列ワンセット

授業計画	<p>日本の産業界を支配した系列ワンセットを解説する。</p> <p>【第6回】 第7章 日本的経営 第8章 日本の特徴/ 日本企業の国際競争力 日本の産業活動における特徴について、日本的経営と国際競争力のキーワードから解説する。</p> <p>【第7回】 第9章 業界研究 自動車産業</p> <p>【第8回】 第10章 業界研究 電機産業-重電機</p> <p>【第9回】 第10章 業界研究 電気産業-情報機器</p> <p>【第10回】 業界研究 電気通信とテレコム改革</p> <p>【第11回】 サービス業におけるイノベーションの視点について</p> <p>【第12回】 第11章 業界研究 小売業の経営革新</p> <p>【第13回】 第12章 業界研究 大規模小売業の再編</p> <p>【春学期課題】 業界研究小論文1 授業で解説した通りの構成で、各自が関心を持つ産業について、小論文をまとめること。</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<p>授業で扱わない業界についても、自分の興味のある業界についてネットで検索するとともに、図書館で関連書籍に目を通して、その業界について理解を深めること。 1年(半期履修生は半年)を通じて、業界研究の小論文(課題)を作成してもらう。 普段から新聞、ネットニュースに目を通し、興味ある業界に対する情報の収集を習慣とすることが重要である。 またmanabaには朝日新聞の記事検索のリンクボタンがあるので、利用法など慣れておくことを推奨する。卒業してから有料で利用しようとする大きな利用料が必要になるので、学生の特権を最大限活用するようにして下さい。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点、小論文(課題)の評価、最終試験の得点により成績を付ける。 各自興味のある業界について業界研究の小論文を課題とする。(課題は、春学期末ないし秋学期末に提出。)</p> <p>平常点は、レポート、履修態度などにより評価する。 平常点の比率は20%を目安とする。 評価の配分 平常点20% 試験・小論文80%</p> <p>年間(半期履修生は半年)をとおして一編の小論文を完成するということを目標にして、一般社会でも通用する内容となっているかが評価の軸となる。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書は、PDF教材を使用する。 春学期『日本産業論1』、秋学期『日本産業論2』 毎回manabaでPDF形式で配布する。</p>
履修上の留意点	<p>授業以外で質問など連絡をとりたい場合は、シラバスに記載されたメールアドレスまでメールを送信すること。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	ED206
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1ED020600
講義名	日本産業論II
担当者名	佐藤 信之
開講情報	秋期 火曜日 3時限 241教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L
備考	
科目の趣旨	日本産業論では、産業分析の手法を用いることにより、我が国の産業構造の特質と発展形態や、わが国産業が直面する諸課題について理解するための知識を学修する。日本産業論IIでは、日本産業論Iでは取り上げなかった我が国産業の個別分野や諸課題について学修する。
授業の内容	産業論という科目がどのような科目であるのかを理解してもらうために、まず最初に一般論について概説を行う。その理解の上に立って、日本の産業がどのように近代化・国際化していったのかを解説する。さらに、近代日本の産業化した産業分野について議論を展開する。 授業は、一般論から初めて、続いて個別論へ講義を進めることで、日本産業の発展形態と今日抱えている課題について理解を深めてもらう。 また、業界別の過去の経緯・現状・課題について考察し、それらの業界についての、個々の学生の研究のきっかけを提供する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は、産業論に関して理解した上で、現在の日本における各産業分野の特徴と問題点を理解すること。さらに、関心を持った産業分野について、自分たちで理解を深めるとともに、その産業分野について自分なりの考えを持てるように心して勉強して欲しい。 本科目は、就職活動において重要となる、志望業界に関する業界研究へのアプローチに対してヒントを与えることも目的とする。授業で紹介する業界に関する知識だけではなく資料を集め分析する、研究アプローチに関する手法についても学びとっていただきたい。
授業形態	講義
授業方法	講義形式 100分 質疑5分 本年度は教室での対面授業を基本とし、Zoomによるリモート授業とする場合は、事前に教室で公表する。 正月休み中にも、Zoomによる課題に関する説明を実施する(任意参加)。 質問がある場合は、挙手したうえで発言すること。 連絡先 n_satoh@myad.jp
	【第1回】 イントロダクション 日本の経済と産業の現状について 【第2回】 日本産業史 明治期／富国強兵政策～大正前期／日本の産業化の完成 【第3回】 同 大正後期／関東大震災～昭和前期／第二次世界大戦 【第4回】 同 昭和後期／終戦～高度経済成長 【第5回】 日本の産業について、とくにサービス業に注目して、特徴を解説する。 【第6回】 業界研究 観光業 日本経済における観光の意義 【第7回】 業界研究・電気通信業 テレコム改革

授業計画	<p>【第8回】 業界研究・コンテンツ事業</p> <p>【第9回】 業界研究・出版事業</p> <p>【第10回】 同 電子書籍の現状</p> <p>【第11回】 業界研究 陸運</p> <p>【第12回】 業界研究 航空</p> <p>【第13回】 秋学期のまとめ</p> <p>【秋学期課題】 業界研究 小論文2 関心のある産業分野について業界研究として小論文をまとめること。</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>授業で扱わない業界についても、自分の興味のある業界についてネットで検索するとともに、図書館で関連書籍に目を通して、その業界について理解を深めること。 1年(半期履修生は半年)を通じて、業界研究の小論文(課題)を作成してもらう。</p> <p>普段から新聞、ネットニュースに目を通し、興味ある業界に対する情報の収集を習慣とすることが重要である。</p> <p>またmanabaには朝日新聞の記事検索のリンクボタンがあるので、利用法など慣れておくことを推奨する。卒業してから有料で利用しようとする大きな利用料が必要になるので、学生の特権を最大限活用するようにして下さい。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点、小論文(課題)の評価、最終試験の得点により成績を付ける。</p> <p>各自興味のある業界について業界研究の小論文を課題とする。(課題は、春学期末ないし秋学期末に提出。)</p> <p>平常点は、レポート、履修態度などにより評価する。</p> <p>平常点の比率は20%を目安とする。</p> <p>評価の配分 平常点20% 試験・小論文80%</p> <p>年間(半期履修生は半年)をとおして一編の小論文を完成するということを目標にして、一般社会でも通用する内容となっているかが評価の軸となる。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書は、PDF教材を使用する。</p> <p>春学期『日本産業論1』、秋学期『日本産業論2』</p> <p>毎回manabaでPDF形式で配布する。</p>
履修上の留意点	授業以外で質問など連絡をとりたい場合は、シラバスに記載されたメールアドレスまでメールを送信すること。
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EE203
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EE020300
講義名	欧米経済史I
担当者名	須永 隆
開講情報	春期 木曜日 2時限 541教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C

備考

科目の趣旨	欧米諸国が本格的に工業化を開始するのは産業革命以降である。しかし、この産業革命は表向き突発性を帯びていたとはいえ、内側をよく見ると決して突然に生じたのではなく、前提となる条件が徐々に熟してから生じたことが分かる。この講義では、中世から産業革命に至るまでの欧米経済の歴史を資本主義の発生という観点から見つめてみる。
授業の内容	経済史概論(ただし前提科目ではない) を履修した学生が一段と高い歴史意識をもてるように指導したい。歴史は暗記物と考えてきた人もいるだろうが、本当はそうではない。同時代に身を置いて考える習慣をつけることで、歴史の流れを理性的に見ることが可能となるだろう。オーソドックな内容でありながら、さまざまな視点から、歴史を学ぶ楽しさを示してみる。就職が厳しい時代、自分が置かれた時代を客観的に見つめなおすのに役立つだろう。欧米の歴史が植民地主義や帝国主義など海外膨張を伴うことは周知のことではあるが、この授業では単なる資本主義論ではなく、近代資本主義の生成・発展について特に扱うことにする。欧米経済史Iでは、中世から産業革命前夜までを扱う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この科目の到達目標は、学生が古代・中世・近世・近代、そして現代と、基本的な欧米経済史の流れを自分でわかるようにすることである。しっかり学べば、欧米で起きている現代の事象を自分で歴史的に判断できるようになるだろう。歴史知識を整理することで、どのような角度で歴史を見ていくか、理解することが可能となるであろう。
授業形態	講義
授業方法	授業は原則として対面方式とする。教室では対話を盛り込んで授業を展開する。パワーポイントの使用を基本とし、途中で映像、動画を織り込んでいくことになるだろう。毎回、丁寧に授業を進める。また、ときおり課題（レポート）が出され、提出（マナバを使用）が求められる。時間が許せば特定テーマについて意見交換をおこない、自主的な学びを促すことになる。
	<p>【第1回】</p> <p>テーマ：中世ヨーロッパにおける世界経済（1）遠隔地商業と遍歴商人—奢侈品生産・奢侈品市場</p> <p>内容：商業の復活、商業圏、遠隔地商業</p> <p>【第2回】</p> <p>テーマ：中世ヨーロッパにおける世界経済（2）スペインとポルトガル</p> <p>内容：新航路の開拓</p> <p>【第3回】</p> <p>テーマ：中世ヨーロッパの農村的世界（1）</p> <p>内容：中世の土地制度と農民</p>

【第4回】

テーマ：中世ヨーロッパの農村的世界（2）農民の生活

内容：伝統主義、慣習

【第5回】

テーマ：中世ヨーロッパの都市的世界（1）理念と構造

内容：中世都市の構造

【第6回】

テーマ：中世ヨーロッパの都市的世界（2）同業組合の形成

内容：中世都市と市民

授業計画

【第7回】

テーマ：イギリスにおける農村工業の展開（1）独立自営農民の形成

内容：農村工業、転換期としての15世紀

【第8回】

テーマ：イギリスにおける農村工業の展開（2）中産的生産者層の成長、市民社会の形成

内容：プロト工業化論

【第9回】

テーマ：国家の形成と重商主義 貿易差額主義、産業保護

内容：重金主義 貿易差額

【第10回】

テーマ：固有の重商主義の社会的背景—国民的産業の形成

内容：産業保護 固有の重商主義 イギリスとオランダ

【第11回】

テーマ：投機としての資本主義—南海泡沫事件の歴史的意味

内容：経済的繁栄と富

【第12回】

テーマ：農村工業の成長と地域市場の出現

内容：国民的産業としての毛織物工業の発展

【第13回】

テーマ：イギリスの海外市場と植民地獲得

内容：北米植民地の支配

事前・事後
学修に必要な
時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

歴史の学びは教室以外の場、とくに図書館や自宅で、関連図書をじっくり読むことが大切である。この授業では、読むべき参考図書が指示され、ときおり課題（宿題）も課される。事前にmanabaでテーマを示すので、各自で取り組み、授業に臨むこと。参加者は、真面目な読書を実践して、与えられた課題（宿題）をレポートとして仕上げ、提出することが求められる。また基本図書をあげるのので、自分からそうした本を手に取り、読むことも大事である。

レポート提出、前期試験を総合して成績評価する。評価の目安はレポート20%、前期試

成績評価方法・基準	<p>験80%程度とする。レポートについては特定のテーマについて知識を確認してもらう。レポート提出の方法はmanabaを利用する。前期試験は教室でおこなう予定である。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書は指定しない。配布資料（担当者作成のテキスト）を中心に講義を進める。 (参考図書) 須永隆『プロテスタント亡命難民の経済史』昭和堂、2010年。</p>
履修上の留意点	<p>1 真面目かつ楽しい授業にしたいので、意欲のない安易な履修は避けてほしい。 2. レポート作成の際のインターネットからのコピペ、他人レポートの「借用」は不正行為とみなす。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EE204
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EE020400
講義名	欧米経済史II
担当者名	須永 隆
開講情報	秋期 木曜日 2時限 541教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C

備考

科目の趣旨	この科目では、イギリス産業革命以降の欧米の資本主義発達史をたどり、経済学の形成に影響を与えた歴史的背景を理解することを目標とする。綿業や製鉄業における機械制大工業の発達、技術革新や労働運動の展開、自由貿易や帝国主義、さらに経済恐慌などの理解を通じて資本主義システムの特徴を理解することを目指す。
授業の内容	経済史概論(ただし前提科目ではない)を履修した学生が一段と高い歴史意識をもてるように指導したい。歴史は暗記物と考えてきた人もいるだろうが、本当はそうではない。同時代に身を置いて考える習慣をつけることで、歴史の流れを理性的に見ることが可能となるだろう。オーソドックな内容でありながら、さまざまな視点から、歴史を学ぶ楽しさを示してみる。就職が厳しい時代、自分が置かれた時代を客観的に見つめなおすのに役立つだろう。欧米の歴史が植民地主義や帝国主義など海外膨張を伴うことは周知のことではあるが、この授業では単なる資本主義論ではなく、近代資本主義の生成・発展について特に扱うことにする。欧米経済史IIでは、産業革命から戦後の世界までを扱う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この科目の到達目標は、学生が産業革命から第二次世界大戦後までの欧米経済史の基本的な流れを自分でわかるようにすることである。しっかり学べば、欧米で起きている現代の事象を自分で歴史的に判断できるようになるだろう。歴史知識を整理することで、どのような角度で歴史を見ていくか、理解することが可能となるであろう。
授業形態	講義
授業方法	授業は原則として対面方式とする。教室では対話を盛り込んで授業を展開する。パワーポイントの使用を基本とし、途中で映像、動画を織り込んでいくことになるだろう。毎回、丁寧に授業を進める。また、ときおり課題(レポート)が出され、提出(マナバを使用)が求められる。時間が許せば特定テーマについて意見交換をおこない、自主的な学びを促すことになる。
	<p>【第1回】 テーマ：イギリス産業革命の歴史的意義 (1) 前提条件 内容：人口増大、植民地獲得、国内需要の増加など</p> <p>【第2回】 テーマ：イギリス産業革命の歴史的意義 (2) 経過と結果 内容：木綿工業と製鉄業を中心に</p> <p>【第3回】 テーマ：工業化の波及と後発国の経済発展 (1) イギリス植民地としての北アメリカ 内容：南北アメリカの差異、北米の形成過程</p> <p>【第4回】 テーマ：工業化の波及と後発国の経済発展 (2) 財務長官ハミルトンの経済構想 内容：北米の経済政策、イギリス支配からの離脱</p>

	<p>【第5回】 テーマ：工業化の波及と後発国の経済発展（3）ドイツの事情 内容：ドイツ固有の事情、エルベ川・東西の差異</p> <p>【第6回】 テーマ：工業化の波及と後発国の経済発展（4）F.リストの国民経済理論 内容：関税同盟、鉄道政策、重工業化</p> <p>【第7回】 テーマ：世界経済の拡大と自由貿易体制の確立 内容：イギリス中心の世界経済</p> <p>【第8回】 テーマ：世界経済の拡大と帝国主義体制の摩擦 内容：1870年代からの長期不況、イギリス経済の相対的低下</p> <p>【第9回】 テーマ：1920年代のアメリカ経済—繁栄と投機的経済の萌芽 内容：空前の好景気を迎える北米</p> <p>【第10回】 テーマ：1930年代の世界経済（1）—ケインズ経済学形成の背景 内容：北米発の大恐慌</p> <p>【第11回】 テーマ：1930年代の世界経済（2）—ニューディール政策 内容：F・ローズベルトの経済政策</p> <p>【第12回】 テーマ：欧米資本主義と戦後の世界（1）アメリカ中心の世界 内容：戦前の教訓を生かした戦後の世界の構築</p> <p>【第13回】 テーマ：欧米資本主義と戦後の世界（2）多極化する経済、広がる格差、南北問題 内容：相対化する世界経済</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	歴史の学びは教室以外の場、とくに図書館や自宅で、関連図書をじっくり読むことが大切である。この授業では、読むべき参考図書が指示され、ときおり課題（宿題）も課される。事前にmanabaでテーマを示すので、各自で取り組み、授業に臨むこと。参加者は、真面目な読書を実践して、与えられた課題（宿題）をレポートとして仕上げ、提出することが求められる。また基本図書をあげるので、自分からそうした本を手に取り、読むことも大事である。
成績評価方法・基準	レポート提出、後期試験を総合して成績評価する。評価の目安は前期レポート20%、後期試験80%程度とする。レポートについては特定のテーマについて知識を確認してもらう。レポート提出の方法はmanabaを利用する。後期試験は教室でおこなう予定である。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は指定しない。配布資料（担当者作成のテキスト）を中心に講義を進める。（参考図書）

須永隆『プロテスタント亡命難民の経済史』昭和堂、2010年。

履修上の留意点

1. 真面目かつ楽しい授業にしたいので、意欲のない安易な履修は避けてほしい。
2. レポート作成の際のインターネットからのコピペ、他人レポートの「借用」は不正行為とみなす。

更新日 2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EE209
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EE020900
講義名	経済思想論
担当者名	八木 尚志
開講情報	秋期 火曜日 1時限 241教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C

備考

科目の趣旨	この科目は経済学の思想的な基礎や基盤を概観するものである。近代資本主義の出現から現代資本主義の形成に至る過程で、主要な経済学者や経済学派がその時代の経済現象をどのように捉えていたかを思想的に解説することを目標としている。
授業の内容	本科目の趣旨を踏まえて、この講義では、経済システムを第1に「自由と市場経済」、第2に「資本主義と企業」という2つの見方を軸として講義を組み立てます。講義は、初回に本講義内容の全体の概観、前半6回を「自由と市場経済」をめぐる経済学者の思想について取り上げ、後半6回を経済システムを「資本主義」及び「企業」に着目して講義を行う予定です。この講義では、経済という大きなシステムを考える場合に重要となる自由主義・市場経済、あるいは資本主義としてみた場合の経済思想について講義を行い、経済政策の基礎となる経済の基本の考え方や視点が、経済学者によってどのように論じられてきたのかということについて講義していく予定です。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この講義を通じて、学生は、自由主義に関する経済思想や市場経済に関する見方、また経済を動的に見る「資本主義」や「企業」といった見方を学ぶことによって、さまざまな経済理論の背景にある経済思想について理解を深め、経済というシステムに関する複眼的な思考を手に入れることを目標とします。
授業形態	講義
授業方法	授業は講義形式です。授業支援システム（manaba）を利用する。毎回の授業で指定された教科書類を読んだのち、講義終了後に、小テストや課題提出を行っていただきます。毎回の課題については決められた期限までに必ず提出してください。授業支援システム（manaba）を使用して小テストへの解答や課題提出を行うこと。
	<p>【第1回】 ガイダンス、経済思想に関する様々な潮流 内容： 経済思想論を学ぶ意義、自由主義的な経済思想、資本主義に関する経済思想</p> <p>「自由と市場経済」</p> <p>【第2回】 スミス以前のフランスにおける経済思想 内容： フランスの重商主義、フランソワ・ケネーと重農学派の経済思想</p> <p>事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第2章を読んでください。 事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第3回】 アダムスミスとディビッド・ヒュームの経済思想 内容： アダム・スミスの自然的自由の体系、道徳感情論の内容</p>

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第3章を読んでください。
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。
提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第4回】 アダム・スミスとジェレミー・ベンサムと功利主義と
内容： アダム・スミスの自然的自由の体制とジェレミー・ベンサムの功利主義。

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第4章を読んでください。
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。
提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第5回】 J.S.ミルにおける自由及び社会主義
内容： J.S.ミルの経済思想。

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第7章を読んでください。
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。
提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第6回】 ワルラスとマーシャルの経済思想
内容： ワルラスとマーシャルの経済思想

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第11章のワルラスの部分と第13章のマーシャルの部分を読んでください。
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト実施します。
提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第7回】 ハイエクとフリードマンの経済思想
内容： ハイエクの自由主義、フリードマンの経済思想

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第22章のフリードマンとハイエクに関する部分を読んでください。
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト
提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

授業計画

「資本主義と企業」

【第8回】 重商主義の経済思想

内容： 重商主義の富の考え方と経済政策、国際収支、現代の重商主義的政策

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第1章および第30章を読んでください。

事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト

提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第9回】 マルサスとリカードウの経済思想

内容： マルサスとリカードウの経済思想、自由主義と保護主義

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第5章を読んでください。

事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト

提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第10回】 ドイツの歴史学派の経済学

内容： F.リスト、G.シュモラー、ゾンバルト、シュンペーターの経済思想

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第9章および第28章を読んでください。

事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト

提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第11回】 K.マルクスの経済思想

内容： K. マルクスの経済思想、歴史認識、資本主義批判

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第10章を読んでください。

事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト

提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第12回】 J.Mケインズの市場経済批判と新しい分析枠組み

内容： ケインズの経済思想、ケインジアン経済思想

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第20章を読んでください。

事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト

提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

冬休みレポート：授業内容で取り上げた経済学者について、1人を取り上げレポートを書いてください。

提出期限：冬休み明けの最初の授業日

提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第13回】 アメリカの制度学派の経済思想、(予備の講義内容として「世界システムをとらえる経済思想」)

内容： ソースタイン・ヴェブレン、J.K.ガルブレイス、コモンズの経済思想

(予備の講義内容として、プレビッシュの経済思想、帝国主義論、従属理論、クルーグマンの中核-周辺論)

事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第29章を読んでください。
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト
提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

事前学習

テキストを指定しました。授業の範囲を事前に読んでください。

テキストの出版が授業開始に間に合わない場合には、代替的な資料を配布します。

事後学習

- ・講義内容に関連したアンケート・小テスト（レポート）を行います。
- ・長期休暇を利用して、レポートを書いていただきます。
- ・事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

成績評価方
法・基準

1) 出席（毎回とります）。授業後の授業に関するmanabaのアンケート機能を利用して、授業内容に関する質問を出しますので、回答をしてください。
成績評価に組み入れます。成績評価では50%。

2) レポート・・・冬季休暇中にレポートを書いていただきます。レポートの形式等は授業中に指示します。成績評価では30%。

3) 期末テストを行います。毎回の授業のクイズを優先し、成績評価では期末テストのウェイトを低めに設定します。20%

課題（試験
やレポート
等）につい
てのフィー
ドバック方
法

本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指
定図書

(教科書)

八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房(秋学期に出版予定)

(指定図書)

ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』(ちくま学芸文庫)

喜多見洋・水田健『経済学史』ミネルヴァ書房

履修上の留
意点

席をして授業を通じて理解を深めてください。

更新日

2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EE218
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EE021800
講義名	太平洋圏経済論
担当者名	奥田 聡
開講情報	春期 木曜日 2時限 7309教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考

科目の趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各国固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、太平洋圏の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	<p>この講義では日米中をはじめとする太平洋圏の国々の最新経済情勢を扱う。また、今後の各国の経済・社会に大きな影響を及ぼす生成AIに関する検討も行う。</p> <p>まず人・モノ・サービス・カネの流動化がもたらすリスクを概観した後、米国、中国、新興国、日本の主として経済面での課題を見ていく。日本については円安、国際収支の赤字体質、「金利のある世界」の到来などについて検討する。また、生成AIによって日本の労働市場が受ける影響を考察し、これへの対策も考える。</p> <p>毎回の授業で生じた疑問・質問を積極的に出してもらいたい。これらに対しては翌週授業の冒頭で答えることにより、受講者の学びをより豊かなものにしていきたい。</p>
科目の到達目標 (理解のレベル)	<p>世界経済において人・モノ・カネが流動化し、新たなリスクをもたらすことを押さえる。米国、中国、新興国、日本が直面する課題を理解する。</p> <p>とくに、日本については円安の意義、国際収支の赤字が常態化したことの意味、プラス金利常態化の影響を把握する。</p> <p>また、生成AIがどのような職種に強く影響するかを押さえたうえでどのような対策があり得るかを考える。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>教科書をもとに教員が作成した講義資料を基に講義を行う。キーワードとその解説をまとめたExcelシートを配布する。画像などを盛り込んだパワーポイントによる講義資料を用いる場合もある。</p> <p>毎回の講義資料は、所定の講義開始時間までにmanaba にアップする。受講者の理解度測定と質疑のためResponによる応答（気づき、疑問、質問など）の提出を求める。出された疑問・質問に対しては翌週授業の冒頭で回答していきたい。</p> <p>受講者の理解を深めるため、教科書出版後の事象（特にトランプ政権に関する事柄）についても適宜補足しながら授業を進める。</p> <p>講義に関する問い合わせは下記アドレスへのメールによること。 okuda@asia-u.ac.jp</p> <p>【第1回】はじめに（授業の趣旨、世界経済の中での日本が直面する7つの課題） 【第2回】 【グローバルリスク】 社会と経済が激しく流動化する中で警戒すべきリスクとは</p>

授業計画	<p>【第3回】 [米国経済] 新政権誕生が揺るがず景気の軟着陸期待* *ただし、別のコンテンツに差し替える可能性あり</p> <p>【第4回】 [中国経済①] 構造問題への対処---改革方針と不動産不況</p> <p>【第5回】 [中国経済②] 構造問題への対処---短期・中長期見通しと人口減少</p> <p>【第6回】 [新興国経済] 好調ながら外部環境の影響大</p> <p>【第7回】 前半期の内容補足、第1回小テスト</p> <p>【第8回】 [新興国経済] 米国大統領選、インド経済への注目</p> <p>【第9回】 [日本経済①] 緩やかな景気回復を見込むも下振れリスクに注意</p> <p>【第10回】 [日本経済②] 金融政策正常化の課題とデフレ脱却後の日本経済の姿</p> <p>【第11回】 [生成AI①] 生成AIが変える日本の労働市場</p> <p>【第12回】 [生成AI②] 職業グループ別の影響と対応策</p> <p>【第13回】 後半期の内容補足、第2回小テスト</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>授業前には、教科書の該当部分をよく読みこんでおくこと。この際、よくわからない用語等はネットなどである程度調べを付けておくように。</p> <p>授業後は授業で配布されたキーワードリストの記載内容をよく読み返すとともに、教科書の該当部分と対照する。ここでもよくわからなかった用語等はネット等で調べる。どうしてもわからない時はRespon入力時に質問する、あるいは次回授業の際に質問するなどを通じて解決すること。</p>
成績評価方法・基準	<p>評定は第1回小テスト、第2回小テスト、毎回授業へのレスポンスの提出により行い、それぞれのウエイトは基本的には1/3ずつとする。本学学生の外国語運用能力の向上をサポートするため、母国語以外の外国語で解答・応答した場合には加点を考慮する。</p> <p>また、授業に関連する内容のレポートを自主的に執筆し、提出した場合にも加点を考慮する。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	Responで出された質問については次回授業で回答する。第1回小テストは採点の上返却し、その際に解説を行う。
教科書・指定図書	教科書 1：熊谷亮丸・大和総研、『この一冊でわかる世界経済の新常識2025』、日経BP、2024年11月。
履修上の留意点	講義方針を徹底するため、第一回の講義資料は必ず出席し、講義の目的、方法、計画等をよく理解しておくこと。
	毎回の授業では、レスポンスを必ず提出すること。レスポンス提出がないと評定上不利となる。やむを得ず講義を受けられない場合は事前に教員宛にメールで連絡すること。厳しい授業なので、心して取り組むこと。無断での欠席・レスポンス未入力4回を限度とする。
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EE219
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EE021900
講義名	中国経済論
担当者名	遊川 和郎
開講情報	春期 金曜日 2時限 7112教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考

科目の趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各国固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、中国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	中国に対する基本的な知識を習得するとともに、より高い次元で問題を考えることができるよう、建国以来の出来事や政策を振り返りながら、経済発展の要因、現在直面している課題について詳しく学習していきます。 中国共産党、中華民国、国民党、政権の正統性、台湾問題、大躍進政策、走資派、人民公社、文化大革命、中ソ関係、米中関係、関与政策、日中関係、党大会、三中全会、改革開放、農業生産責任制、外資導入、政府開発援助、経済特区、税制優遇、市場経済化、国有企業改革、セーフティネット、民営企業、WTO加盟、社会主義市場経済、国家資本主義、経済格差、一帯一路、AIIB、共同富裕、インバウンド、人口動態等がキーワードです。
科目の到達目標 (理解のレベル)	授業を通して、現代中国を分析する基本的な視座を涵養するとともに、日本や世界との関係で中国を捉え、広く社会や経済事象に対する考え方を身につけることを目標とします。 これに関連して基本的な経済用語や定義などについて、正確な知識と理解が必要です。また「知らない」「わからない」ではなく、解を導き出す習慣も身に付けましょう。進行中の諸問題からも問題の本質を発見し、解決能力を養います。
授業形態	講義
授業方法	教員からの講義、問いかけに対して、受講者がそれぞれ自分の頭で考えることを中心に授業を進めます。講義は視聴覚（ビデオ）教材を利用し、議論の共通の土台を作ります。授業に集中し、積極的に発言してください。 manabaで授業各回のレジュメや資料を共有する他、manabaの小テスト機能を利用した基礎知識の定着を図り、manabaレポート機能を利用してレポートの提出を求めます。
	【第1回】オリエンテーション 国の成り立ちを考える 建国以前の中国と中国共産党、政権の正統性、民主主義と権威主義、台湾 【第2回】混迷する社会主義建設 ①建国の理想と現実 農村土地改革、人民公社化と大躍進。私有財産の否定、奇妙な発展戦略 【第3回】混迷する社会主義建設 ②経済政策をめぐる対立 大躍進の失敗と走資派の台頭、劉少奇、「農業は大業に学べ」 【第4回】混迷する社会主義建設 ③文化大革命 四人組、中ソ対立と米中関係、ニクソン訪中、関与政策 【第5回】混迷する社会主義建設 ④改革開放前夜 周恩来、四つの近代化、鄧小平 天安門

授業計画	<p>事件、毛沢東死去と権力移行</p> <p>【第6回】改革開放政策 ①農村からのスタート 農業生産責任制（請負制）、万元戸、先富論</p> <p>【第7回】改革開放政策 ②対外開放政策と外資導入 インフラ整備、経済特区、外資誘致、税制優遇</p> <p>【第8回】改革開放政策 ③日中国交正常化 戦後賠償と円借款（政府開発援助）、日本企業の中国進出 インバウンド</p> <p>【第9回】改革開放政策 ④市場経済化の苦難 国有企業改革、セーフティネット、社会主義市場経済、民営企業</p> <p>【第10回】直面する課題 ①共同富裕 貧困、地域格差、都市と農村の構造格差、改革の歪みと政府の責任放棄</p> <p>【第11回】直面する課題 ②国際通商ルールへの参画 WTO加盟、一帯一路とAIB</p> <p>【第12回】直面する課題 ③人口動態と少子化問題 一人っ子政策の終了、人口減少時代に</p> <p>【第13回】まとめ 中国を取り巻く国際環境の変化 関与政策からデリスキングへ</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<p>毎回の授業後、履修内容や感想、質問などを記した受講レポート（500字以上）提出を義務付けます。授業で履修した内容をきちんと整理し、確認しながら進んでください。授業時に指定された図書をよく読んでさらに理解を深めてください。</p> <p>また、manabaを利用して学期中2回の小テストを予定しています。小テストを通じて履修内容の復習、知識の定着を図ってください。いずれも詳細は授業時に説明します。</p>
成績評価方法・基準	<p>それぞれ以下の要素で評価し、合算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点（毎回授業後に、受講レポートを提出）35% ・課題（小テスト、学期中2回を予定）35% ・最終試験30% <p>毎回の授業にきちんと参加し、期限通りに課題を提出することが必須となります。特に、毎回の受講レポート提出を通して履修内容を確認してください。課題（小テスト）では、学んだ知識が定着していることを確認します。知識の積み上げを実感してください。詳細は授業時に説明します。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこないます。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書は使用しませんが、関連する図書を授業時に紹介します。</p>
履修上の留意点	<p>（1）「楽に単位を取りたい」という人には不向きな授業です。しかし、真剣に取り組む人には高い知的満足感が得られるよう努力します。</p> <p>（2）授業に集中してください。またその環境作りにご協力をお願いします。</p> <p>（3）履修にあたっての重要事項を説明しますので、必ず初回授業に出席してください。</p>

更新日 2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EE220
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EE022000
講義名	韓国経済論
担当者名	奥田 聡
開講情報	春期 金曜日 4時限 526教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	
科目の趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各国固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、韓国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	これまでの韓国経済の急速な経済発展の様子を回顧し、現在も輸出主導型の成長構造を維持する経済の現状と課題を概観する。輸出を梃子とした経済発展が採用された背景、アジア通貨危機の苦い経験をもたらした要因、リーマンショック後の成長鈍化と輸出主導型経済の限界、コロナ禍の影響、そして現在の韓国経済が直面する主要課題を扱うことにする。 毎回の授業で生じた疑問・質問を積極的に出してもらいたい。これらに対しては翌週授業の冒頭で答えることにより、受講者の学びをより豊かなものにしていきたい。
科目の到達目標 （理解のレベル）	韓国経済が内戦の灰燼から立ち上がり、世界を驚かす急速な経済発展を遂げた道筋を跡付け、経済発展の根幹的要素であった輸出主導政策の進展を助けた要因を理解する。また、近年の政権の経済政策の方向を理解し、主要相手国との間の経済関係における課題を把握する。
授業形態	講義
授業方法	教員作成の資料を基に講義を行う。Wordで作成したレジュメを基本とするが、その内容を分かりやすく再構成し、画像データなども配置したパワーポイントシートも適宜用いる。 毎回の講義資料は、所定の講義開始時間までにmanaba にアップする。受講者の理解度測定と質疑のためResponによる応答（気づき、疑問、質問など）の提出を求める。出された疑問・質問に対しては翌週授業の冒頭で回答していきたい。 講義に関する問い合わせは下記アドレスへのメールによること。 okuda@asia-u.ac.jp
授業計画	【第1回】 オリエンテーション（講義概略の紹介、受講者の意向聴取等） 【第2回】 解放後の韓国経済（日本の敗戦、朝鮮戦争後の荒廃、李承晩政権下での原始的工業発展） 【第3回】 朴正熙政権下での経済発展（「先成長・後分配」による成長推進、開発独裁、輸出主導成長、重化学工業化と経済政策の変質） 【第4回】 全斗煥政権の経済運営と民主化後の変化（1980年不況後の経済健全化策、民主化と労働運動、自由化・国際化、過剰投資） 【第5回】 アジア通貨危機とその後（原因、経過、IMF体制、応急措置の奏効、急速な回復、その後の歩み） 【第6回】 リーマン後の低成長（リーマンショック後の低成長、李明博・朴槿恵・文在寅政権の経済政策） 【第7回】 コロナ禍とその後（コロナ禍の経済面での影響、尹錫悦政権の経済政策）、中

	<p>間レポート出題</p> <p>【第8回】 輸出頼みの成長構造（アジア通貨危機後の経済成長における輸出の重要性、内需の不振、庶民生活の苦境など）</p> <p>【第9回】 輸出入の構造（スマホ、半導体、自動車、船舶などの主力輸出商品、資源・エネルギーおよび部品・素材の輸入、主要国・地域別貿易動向、対日輸入の実態）</p> <p>【第10回】 今後に向けての問題点と展望①（日韓・中韓・米韓の経済関係）</p> <p>【第11回】 今後に向けての問題点と展望②（未来産業戦略、経済安全保障など）</p> <p>【第12回】 今後に向けての問題点と展望③（戒厳宣布以後の政治混乱と韓国経済など）、</p> <p>期末レポート出題</p> <p>【第13回】 期末レポートに関する執筆相談、前期授業内容についての質疑応答</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>授業中に得た知識を定着させるため、事後学習に重きを置くとよい。</p> <p>授業前には、授業項目に関してネット検索などによって予備的な知識を得ておく。</p> <p>授業後は授業で配布されたレジюмеやキーワードリストの記載内容をよく読み返す。不明点については授業終了時のリスポンスに記入するか、書籍あるいはネット検索などで調べる。それでも不明であればメールまたは次回授業での質問を試みる。</p>
成績評価方法・基準	<p>評定の内訳は中間レポート30%、期末レポート40%、毎回授業のリスポンス30%を基本とする。本学学生の外語運用能力の向上を支援するため、母国語以外の言語によって執筆した場合には加点を考慮する。対応可能な言語については開講後に指示を出す。レポート出題と提出はmanabaにて行う。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教員作成の講義資料を配布（manabaに所定授業開始時間までにアップするので各自取得すること）
履修上の留意点	<p>講義方針を徹底するため、第一回の講義資料は必ず取得し、講義の目的、方法、計画等をよく理解しておくこと。授業は韓国に特化した内容であって下調べがかなり必要となる。厳しい授業なので、心して臨むこと。やむを得ず講義に参加できないときはあらかじめ連絡されたい。無断でのコメント未入力・欠席は4回を限度とする。</p>
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EF211
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EF021100
講義名	租税論I
担当者名	吉村 典久
開講情報	春期 水曜日 2時限 542教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L

備考

科目の趣旨 我々の諸活動の様々な面で不可欠のかかわりを持つ租税について、経済学を学ぶ学生が身につけておくべき実際面の知識を学修する。具体的には、生産活動、消費活動、投資活動などの様々な活動に対して課される、我が国の法人所得税、個人所得税、消費税、相続・贈与税などの考え方や税額計算の基本的な仕組みを理解することを目標とする。アプローチは主にこれらの租税の立法趣旨、条文、判例ならびに数値例による税額計算方法の説明という方法を用いる。租税論IIの前提となる科目であるとともに、経済専門キャリア特講（税務会計）の科目と密接に関係し相互に有用な科目である。

授業の内容 受講生である経済学部生は必ずしも法律学に精通しているわけではないので、最初に、法律学の思考方法（法的三段論法）を解説し、法律条文の重要性を理解してもらう。次に、租税法総論、所得税法及び租税確定手続を中心に解説する。租税法総論では、租税法を規律する重要な租税法原則である租税法律主義と租税公平主義を解説する。また、租税法の宿痾である租税回避行為についても論じる。その上で、国家の税収の大宗を占めているいわゆる基幹税の一つでもあり、研究ももっとも進んである所得税法を解説する。所得税は、我々の生活に最も密接に関わっている租税であり、所得税の租税効果を事前に知ることなしに安定した私的生活を送ることはできない。租税確定手続のパートでは、申告、更正決定、質問検査権行使（税務調査）等を扱い、租税徴収手続のパートでは、租税の納付、滞納処分、源泉徴収、第二次納税義務等を解説する。なお、所得税は、公認会計士試験の試験科目にもなっている。

科目の到達目標（理解のレベル） 受講生は、本講義により、我々の日常生活に決定的な影響を与えている租税負担を規律する租税法律に関する知識を得ることができる。そのことにより、我々はありうる租税負担を考慮に入れて私的取引を適正に行い、不必要な租税負担に苛まれない賢い納税者になることが期待できる。そのみならず、租税法及び税制を理解することは、政府の政策を見抜くことにつながるのであって、納税者による政府に対する適切なコントロール意識が醸成される。

授業形態 講義

授業方法 授業で使用する資料(PDFファイル)は、事前にオンラインでアップする。

- 【第1回】
法律学としての租税法の基礎知識（財政と税制、法的三段論法、現代国家における租税）
- 【第2回】
租税法の基本原則（租税法律主義と租税公平主義）
- 【第3回】
租税教育ビデオ鑑賞（国家と納税者の租税をめぐる攻防）
- 【第4回】
租税回避行為
- 【第5回】
所得税法1（納税義務者と課税単位）
- 【第6回】
所得税法2（所得概念）

授業計画	<p>【第7回】 所得税法3 (所得の種類1)</p> <p>【第8回】 所得税法4 (所得の種類2)</p> <p>【第9回】 所得税法5 (収入金額と必要経費・取得費等)</p> <p>【第10回】 所得税法6 (所得の人的帰属及び所得の年度帰属)</p> <p>【第11回】 所得税法7 (所得税額の計算)</p> <p>【第12回】 租税確定手続1 (申告・更正の請求・更正決定・質問検査権)</p> <p>【第13回】 租税確定手続2 (推計課税・加算税・還付金等) ・租税徴収手続 (滞納処分)</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>事前学習: 授業で使用する資料(PDFファイル)は、事前にオンラインでアップするので、十分に読んでおくこと。</p> <p>事後学習: 授業で使った資料(PDFファイル)に記載された判例・文献やそれに関連する判例・文献を確認し、授業内容と照らし合わせて復習すること。</p>
成績評価方法・基準	<p>原則として、下記規準にしたがって評価する。ただし、履修人数が少数の場合、平常点の比率を記載より重くすることもあり得る。</p> <p>① 学年末試験 80%</p> <p>② 出席及び授業内のパフォーマンスを評価する平常点 20%</p>
課題 (試験やレポート等) についてのフィードバック方法	本授業での課題 (試験やレポート等) の講評・解説については授業内 (口頭) もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書: 岸田ほか『基礎から学ぶ現代税法 (第5版)』 (財経詳報社 2023年)</p> <p>必携書: 中里実 = 増井良啓 = 瀧圭吾編『租税法判例六法 (第6版)』 (有斐閣 2023年)</p> <p>参考書: 金子宏『租税法 (第24版)』 (弘文堂 2013年)</p> <p>水野忠恒『租税法大系 (第5版)』 (中央経済社 2024年)</p> <p>谷口勢津夫『税法基本講義 (第7版)』 (弘文堂 2021年)</p> <p>いずれも最新版が出版されればそれによる。</p>
履修上の留意点	本講義は、教員が学生に授業中随時に質問をし、あるいは、設問を解答させるなどを行う対話型授業である。
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EF212
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EF021200
講義名	租税論II
担当者名	吉村 典久
開講情報	秋期 水曜日 2時限 542教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L

備考

科目の趣旨	我々の諸活動の様々な面で不可欠のかかわりを持つ租税について、経済学を学ぶ学生が身につけておくべき理論面の知識を学修する。具体的には、租税の根拠論、租税の公平性、応能説に基づく犠牲説、応益説に基づくリンダールメカニズム、租税の中立性、余剰分析に基づく超過粉炭の最小化、徴収費用と納税協力費用の最小化、マクロ政策などの良い租税の条件（租税原則）、租税負担の転嫁と帰着、租税が労働供給や貯蓄に与えるインセンティブなどを理解することを目標とする。アプローチは学説の歴史的展開ならびにミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な知識を前提とした分析手法を用いる。租税論Iで具体的な租税を学修していることを前提とする科目であるとともに、経済専門キャリア特講（税務会計）の科目と密接に関係し相互に有用な科目である。
授業の内容	秋学期の「租税論II」では、法人税法、消費税法、相続税法（相続税及び贈与税を規律している。）及び、租税争訟法を解説する。特に、法人税及び消費税は、言うまでもなく、基本的に企業が納税義務者となる租税であり、企業活動を円滑に行うため、企業人はその内容や構造を把握する必要がある。税引後利益の最大化が企業にとってはもっとも関心のある事項であるため、法人税及び消費税の知識は、企業に関係する者にとって必須である。日本の相続税及び贈与税の租税負担は、諸外国のそれと比べて非常に重いため、相続や贈与の機会に接する者にとっては、その理論や実務をどうしても理解しておかなければならないといえる。最後の、租税争訟法では、納税者の権利が侵害されたときに、その権利がどのように救済されるか論じる。論じる。 なお、法人税及び消費税は、公認会計士試験の試験科目にもなっている。
科目の到達目標 （理解のレベル）	受講生は、本講義により、我々の日常生活に決定的な影響を与えている租税負担を規律する租税法律に関する知識を得ることができる。そのことにより、我々はありうる租税負担を考慮に入れて私的取引を適正に行い、不必要な租税負担に苛まれない賢い納税者になることが期待できる。その結果、企業活動における租税負担の重要性を必ずしもまだ十分に認識しているとはいえない日本企業に対し、必要な租税法上のアドバイスを行いうる有能な租税参謀を生み出すことにもつながる。そのみならず、租税法及び税制を理解することは、政府の政策を見抜くことにつながるのであって、納税者による政府に対する適切なコントロール意識が醸成される。
授業形態	講義
授業方法	授業で使用する資料(PDFファイル)は、事前にオンラインでアップする。
	【第1回】 法人税法の基礎理論1（法人税の性質・法人税と所得税の二重負担） 【第2回】 法人税法の基礎理論2（法人税の納税義務者・企業会計と租税会計・所得の年度帰属） 【第3回】 益金1（法人税法22条2項・22条の2） 【第4回】 損金1（法人税法22条3項） 【第5回】

授業計画	<p>損金2（役員給与等・寄附金・交際費等） 【第6回】 法人税の税額計算、法人税の政策 【第7回】 国際課税の基礎知識（国際的二重課税とその排除方法・外国法人に対する課税） 【第8回】 消費税の基礎理論 【第9回】 消費税の納税義務者 【第10回】 消費税の課税対象 【第11回】 消費税の税額計算・仕入税額控除 【第12回】 相続税及び贈与税の基礎理論 【第13回】 租税争訟手続・租税処罰手続</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>事前学習: 授業で使用する資料(PDFファイル)は、事前にオンラインでアップするので、十分に読んでおくこと。 事後学習: 授業で使った資料(PDFファイル)に記載された判例・文献やそれに関連する判例・文献を確認し、授業内容と照らし合わせて復習すること。</p>
成績評価方法・基準	<p>原則として、下記規準にしたがって評価する。ただし、履修人数が少数の場合、平常点の比率を記載より重くすることもあり得る。 ① 学年末試験 80% ② 出席及び授業内のパフォーマンスを評価する平常点 20%</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書：岸田ほか『基礎から学ぶ現代税法（第5版）』（財経詳報社 2023年） 必携書：中里実＝増井良啓＝瀧圭吾編『租税法判例六法（第6版）』（有斐閣 2023年） 参考書：金子宏『租税法（第24版）』（弘文堂 2013年） 水野忠恒『租税法大系（第5版）』（中央経済社 2024年） 谷口勢津夫『税法基本講義（第7版）』（弘文堂 2021年） いずれも最新版が出版されればそれによる。</p>
履修上の留意点	本講義は、教員が学生に授業中随時に質問をし、あるいは、設問を解答させるなどを行う対話型授業である。
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EF221
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EF022100
講義名	経営学I
担当者名	松本 久良
開講情報	春期 火曜日 4時限 532教室
単位数	2
受講可能学部	E

備考

科目の趣旨	企業経営に関する基礎的な概念や理論についての知識を広く体系的に習得することを目的とする。本講義では、まず前半で企業の果たす役割、株式会社制度の生成と発展、企業統治と社会的責任など「企業とは何か」を主題に学習する。後半では資本の論理と組織の論理をどのように接合するのかということを考えつつ、企業の目的、企業活動の枠組み、経営理論、経営組織、経営戦略など「経営とは何か」を主題に学習する。
授業の内容	経営学とはその主たる研究対象である企業に関する基本的知識を学ぶ学問ですが、経営学Iでは企業の基本的な構造を中心に学びます。経営学には理論と実践とのバランスが求められるという特徴があるので、論理的な考え方と合わせて具体的な企業の実例やケース研究などを通じて、企業の活動について実践面からのアプローチも行います。また、企業にはその活動を経営環境の変化に応じて柔軟に変化させるという特性もあるので、大きく変わる現在の環境下で企業はどのように変貌しようとしているのかという新たな動向についても検討します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	自分の言葉で企業や経営について分析できるようになることを目指します。企業が活動の場をいっそう海外市場へとシフトする中で、国内の雇用や報酬のあり方も大きく変貌しようとしています。こうした状況の中で、これから組織の一員として活躍することになるということからも、企業とは何か、どうあるべきか、また自らは企業とどのように向き合うべきなのか、こうしたことについて積極的に考える思考力を身に付けることを目標とします。
授業形態	講義
授業方法	教室での対面授業になります(春学期13回)。授業形態は講義が中心になりますが必要に応じて質疑応答や討論なども取り入れます。授業を補完するツールとしてmanaba(授業支援システム)を利用します。manabaは、課題の提示と提出、テキストの内容の理解度を問う確認テストの実施、質問等の受け付け、授業資料の掲出、フィードバックの実施、授業情報の掲示、出席の確認、など多方面に援用します。
	経営学I(春学期科目)では以下のようなスケジュールを予定しています。受講の状況や講義の進展に応じて、各回の内容や課題などについては変更する場合があります。基本的にはテキストに準拠し進めていき、テキストの1章～6章を学習します。
	<p>【第1回】4月22日 <ガイダンス、経営学の概要> 内容：受講に際しての確認事項、テキストの概略、経営学とは何か、企業とは何か、経営学と経済学 <企業の役割について考える>(第I部第1章 1～5ページ) 内容：身近な存在としての企業、生活のサポーター、資源を用いての生産と創造、果たすべき責任</p> <p>【第2回】4月29日 <企業と社会との関係について考える>(第1章 5～13ページ)</p>

内容：企業社会、ビジネス化、ライフスタイルの創造と革新、IT化とグローバル化

【第3回】5月13日

＜企業についてのさまざまな見方を理解する＞(第2章 14～23ページ)

内容：企業に対する多様なイメージ、目標と存続・成長、企業はだれのものか、企業の分類、企業形態論

【第4回】5月20日

＜システム論と現代経営学について考える＞(第2章 23～33ページ)

内容：オープン・システムとクローズド・システムという観点、システムとサブシステム、現代経営学の3つの主要な観点

【第5回】5月27日

＜行政組織とその役割について考える＞(第3章 34～38ページ)

内容：グッド・ライフと行政、環境変化と新たな役割、行政と民営化

【第6回】6月3日

＜NPOや社会起業家の役割と期待について知る＞(第3章 38～46ページ)

内容：増大するNPOへの期待、ソーシャル・アントレプレナーと社会的企業、企業・行政・NPOの関係

【第7回】6月10日(第1回理解度確認テストの実施(1・2・3章))

＜企業を理解する多様な手段について知る＞(第4章 47～52ページ)

内容：情報収集、企業情報、新たな情報源の活用、情報の加工度

【第8回】6月17日

＜経営学の学習とルート選択について理解する＞(第4章 52～60ページ)

情報の質量マトリックス、経営学と隣接学問、実学としての経営学

【第9回】6月24日

＜経営者の仕事とはどのようなものかを知る＞(第II部第5章 61～68ページ)

内容：伝統的な役割と革新的な役割、場とフィールド、階層の違いと仕事の違い

【第10回】7月1日

＜経営理念と人的資源に対する役割を考える＞(第5章 68～76ページ)

内容：トップの役割としての理念制定、ビジョンづくり、文化の醸成、組織メンバーの活用と育成

【第11回】7月8日

＜企業の仕組みを理解する＞(第6章 77～81ページ)

内容：企業の成長過程、所有・経営・労働、統制の範囲、所有と経営の分離、大規模企業の特徴

【第12回】7月15日

＜企業の構造と統治について考える＞(第6章 81～91ページ)

内容：階層と部門、意思決定、リーダーシップ、株式会社、ガバナンス

【第13回】7月22日(第2回理解度確認テストの実施(4・5・6章))

内容：授業内容(1章～6章)についての振り返り

7月29日(予定)の試験について留意すべき点を説明する

授業計画

事前・事後
学修に必要な
時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前学習としては、日頃から企業について関心を持ち、メディアを通じて発表される企業の戦略などの記事を読んだり、番組を視聴するなどして知識を得てください。そして、授業に積極的に取り組み、事後学習として受講後は記憶が新しいうちに必ず内容を復習す

事前・事後学修の内容	<p>るようにしてください。具体的には、授業で学習した理論的な知識をしっかりと身に付けるとともに、現実の企業の例にあてはめて考えるなど応用・発展を心掛けるようにし、理論と実践の両面から考える力を涵養してください。理解度確認テストやレポート課題などで理解のレベルを随時確認します。また、授業に関連したことで不明な点がある場合には些細なことでも結構ですので質問するようにしてください。</p>
成績評価方法・基準	<p>詳細は、学期末に実施する試験(50%)、レポート課題(30%)、理解度確認テスト(20%)、そして全回を通じての授業への出席、これらを総合的に評価した結果成績が確定します。対面授業全13回のうち、最低限2/3以上の出席が最終評価のために必須となります。出欠状況についてこの基準を満たしていない場合、試験などの結果如何にかかわらず単位取得が困難になるので注意してください。なお、評価についての詳細や変更点などがある場合は授業中に案内します。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書⇒齊藤毅憲編著 『経営学を楽しく学ぶ』 第4版 (中央経済社、2020年) ISBN 978-4-502-33781-9 受講者は必須となりますので開講時までに入手をお願いします。</p>
履修上の留意点	<p>積極的な学習への取り組みが必要になるとともに、出欠確認や提出物の締め切り等厳格に行いますので注意してください。また、亜大ポータルやmanabaに頻繁にアクセスして、授業の実施状況や課題・試験などの有無を必ず確認するようにしてください。105分間の授業時間中は集中して取り組み、真摯な姿勢で受講することが履修上の基本要件となります。経営や経済系の科目を履修していることが望ましいですが、本科目を履修するに際して必須となる科目はありません。</p>
更新日	<p>2025/3/19</p>

開設	経済学科
科目ナンバー	EF222
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EF022200
講義名	経営学II
担当者名	松本 久良
開講情報	秋期 火曜日 4時限 532教室
単位数	2
受講可能学部	E

備考

科目の趣旨	企業経営に関する基礎的な概念や理論についての知識を広く体系的に習得することを目的とする。本講義では、まず前半で企業の果たす役割、株式会社制度の生成と発展、企業統治と社会的責任など「企業とは何か」を主題に学習する。後半では資本の論理と組織の論理をどのように接合するのかということをお考えつつ、企業の目的、企業活動の枠組み、経営理論、経営組織、経営戦略など「経営とは何か」を主題に学習する。
授業の内容	経営学とはその主たる研究対象である企業に関する基本的知識を学ぶ学問ですが、経営学IIでは戦略や組織の問題など具体的かつ応用的な事柄について、事例を取り上げるなどより実践的に学びます。経営学には理論と実践とのバランスが求められるという特徴があるので、論理的な考え方と合わせて具体的な企業の実例やケース研究などを通じて、企業の活動について実践面からのアプローチも行います。また、企業にはその活動を経営環境の変化に応じて柔軟に変化させるという特性もあるので、大きく変わる現在の環境下で企業はどのように変貌しようとしているのかという新たな動向についても検討します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	自分の言葉で企業や経営について分析できるようになることを目指します。企業が活動の場をいっそう海外市場へとシフトする中で、国内の雇用や報酬のあり方も大きく変貌しようとしています。こうした状況の中で、これから組織の一員として活躍することになるということから、企業とは何か、どうあるべきか、また自らは企業とどのように向き合うべきなのか、こうしたことについて積極的に考える思考力を身に付けることを目標とします。
授業形態	講義
授業方法	教室での対面授業になります(秋学期13回)。授業形態は講義が中心になりますが必要に応じて質疑応答や討論なども取り入れます。授業を補完するツールとしてmanaba(授業支援システム)を利用します。manabaは、課題の提示と提出、テキストの内容の理解度を問う確認テストの実施、質問等の受け付け、授業資料の掲出、フィードバックの実施、授業情報の掲示、出席の確認、など多方面に援用します。
	経営学II(秋学期科目)では以下のようなスケジュールを予定しています。受講の状況や講義の進展に応じて、各回の内容や課題などについては変更する場合があります。基本的にはテキストに準拠し進めていき、テキストの7章～12章を学習します。
	<p>【第1回】10月7日 <起業の意味と促進要因を理解する> (第7章 92～97ページ) 内容：アントレプレナー(シップ)、起業家の特徴、起業を促すさまざまな要因、インキュベーター</p> <p>【第2回】10月14日 <起業の3つの形態とポイントを理解する> (第7章 97～107ページ) 内容：ニューベンチャー、スタート・アップ、ビジネス・プラン、起業の際の問題点</p> <p>【第3回】10月21日</p>

<企業間関係の意味と3つのパースペクティブを理解する> (第8章 108~115ページ)
内容：関係とは、資源依存、依存回避の方法、取引コスト、学習、アウトソーシング

【第4回】10月28日

<企業間関係の種類とグループ経営を理解する> (第8章 115~126ページ)
内容：戦略と関係づくり、M & A、合併、買収、戦略的提携、合併、グループ経営の代表例、戦略的グループ経営

【第5回】11月11日

<経営戦略の役割と変遷を知る> (第III部第9章 127~137ページ)
内容：環境適応と戦略、戦略と戦術、戦略の定義、戦略と組織、戦略的経営、企業戦略とドメイン

【第6回】11月18日

<競争戦略とその実践について考える> (第9章 137~143ページ)
内容：競争戦略とは何か、3つの基本競争戦略、競争地位別の戦略、製品ライフ・サイクル

授業計画

【第7回】11月25日(第1回理解度確認テストの実施(7・8・9章))

<組織についての基本的な考え方を理解する> (第10章 144~148ページ)
内容：組織成立の3要素、組織構造の決定要因、伝統的な管理原則

【第8回】12月2日

<組織の形態と実行性を理解する> (第10章 148~160ページ)
内容：職能部門別組織、事業部制組織、カンパニー制、フラット化とネットワーク、人材と文化

【第9回】12月9日

<経営環境とは何かを考える> (第11章 161~166ページ)
内容：変容する現代の経営環境、オープン・システムと経営環境、組織と環境とのボーダー・ライン、バリュー・チェーンと境界

【第10回】12月16日

<経営環境の分析と適応について考える> (第11章 167~178ページ)
内容：環境の種類と把握、PEST分析、5つの力分析、内部環境分析、SWOT分析、VRIO分析、環境適応の課題

【第11回】1月6日

<経営資源の役割と分類を学ぶ> (第12章 179~185ページ)
内容：厳しい環境下での成功の理由、4つの経営資源の確認、情動的資源の中身、特性による資源分類

【第12回】1月13日

<経営資源の配置・評価・活用を学ぶ> (第12章 186~194ページ)
内容：価値連鎖から資源の配置を理解する、分析手法から資源を適切に評価する、資源の有効活用について

【第13回】1月20日(第2回理解度確認テストの実施(10・11・12章))

内容：授業内容(7章~12章)についての振り返り
1月27日(予定)の試験について留意すべき点を説明する

事前・事後 学修に必要な 時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前学習としては、日頃から企業について関心を持ち、メディアを通じて発表される企業の戦略などの記事を読んだり、番組を視聴するなどして知識を得てください。そして、授業に積極的に取り組み、事後学習として受講後は記憶が新しいうちに必ず内容を復習する

事前・事後学修の内容	<p>ようにしてください。具体的には、授業で学習した理論的な知識をしっかりと身に付けるとともに、現実の企業の例にあてはめて考えるなど応用・発展を心掛けるようにし、理論と実践の両面から考える力を涵養してください。理解度確認テストやレポート課題などで理解のレベルを随時確認します。また、授業に関連したことで不明な点がある場合には些細なことでも結構ですので質問するようにしてください。</p>
成績評価方法・基準	<p>詳細は、学期末に実施する試験(50%)、レポート課題(30%)、理解度確認テスト(20%)、そして全回を通じての授業への出席、これらを総合的に評価した結果成績が確定します。対面授業全13回のうち、最低限2/3以上の出席が最終評価のために必須となります。出欠状況についてこの基準を満たしていない場合、試験などの結果如何にかかわらず単位取得が困難になるので注意してください。なお、評価についての詳細や変更点などがある場合は授業中に案内します。</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書⇒齊藤毅憲編著『経営学を楽しく学ぶ』第4版(中央経済社、2020年) ISBN 978-4-502-33781-9 受講者は必須となりますので開講時までに入手をお願いします。</p>
履修上の留意点	<p>積極的な学習への取り組みが必要になるとともに、出欠確認や提出物の締め切り等厳格に行いますので注意してください。また、亜大ポータルやmanabaに頻繁にアクセスして、授業の実施状況や課題・試験などの有無を必ず確認するようにしてください。105分間の授業時間中は集中して取り組み、真摯な姿勢で受講することが履修上の基本要件となります。経営や経済系の科目を履修していることが望ましいですが、本科目を履修するに際して必須となる科目はありません。</p>
更新日	2025/3/19

開設	経済学科
科目ナンバー	EF223
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1EF022300
講義名	商法
担当者名	佐藤 文彦
開講情報	通年 火曜日 2時限 7200教室
単位数	4
受講可能学部	E

備考

科目の趣旨	前半の最初に、取引に関する法的ルールとしての商法の独自性と商法が適用されるべき場合に重要となる商行為概念と商人概念の検討を行い、商法全体の枠組みを理解する。次に、企業の主体としての商人の商号とその保護、商人の営業と営業譲渡そして営業補助者としての商業使用人と代理商を扱うことにより、商人が取引においてどのような法的ルールのもとにおかれているのかを立体的に理解する。後半では、商人間取引の総論と各論を主に取り扱う。総論としては、商人間取引の基本的特色として効率性の問題を取りあげる。各論では商人間取引の典型であり、起点である国際売買取引から考察を開始し、その後人と物の流れを担う運送取引、取引の仲介としての取次ぎ・仲立そして倉庫営業と順次論を進めていき、商人間取引の有機的な連関をより実感を持って統一的に把握できるようにする。
-------	--

授業の内容	現代世界の（金融）資本主義経済体制にあつて、その中心的・絶対的な活動主体は、——一般に「（共同営利私）企業」と称されるものの中でも、とりわけ——株式会社企業法人である。この株式会社企業法人を含む会社企業法人全般を規律する法（領域）は「会社法」であるが、この「会社法」は元々「商法」という法律内容の一部を構成していた法であつて、平成17年に「商法」から独立して単体の法律とされたものであり、その「会社法」には「商法」が規定する商法総則に相当する規定群が組み込まれ、その規整対象である会社企業法人には、やはり商法が規定する商行為法が引き続き直接適用される。したがって起業家や企業関係者にとって、本科目で扱う、商法総則・商行為法をその主要な構成内容とする「商法」は、これからも重要であることに変わりがない。本科目授業では、この商法に規定されている諸制度を、その一般法である民法上の諸制度と併せて立体的かつ体系的に学んでもらい、企業実務、とりわけその対外的活動に携わる者としての法実践的な素養を身につけてもらうことをねらいとする。むろん、本科目は、法学を専攻していない経済学部の学生諸君を対象とするものであることから、これにともない商法学に関連する基本概念内容（とくに「企業」概念をめぐる商法学と経済学上の対象認識のズレ等）を適宜確認することも予定している。
-------	---

科目の到達目標 (理解のレベル)	われわれが生活しているこの資本主義経済社会において現実に活動している、とりわけ株式会社企業法人を主とする「商人」全般のその活動に、法は本質的にどのように関わっているのか、また関わるべきなのか、この点についての基本的な考え方を、本科目授業にて展開される、商法が商法総則（第一編）と商行為法（第二編）にて規定する各種法制度や商法学関連基本概念、さらには憲法に始まり民法から商法・会社法に至る法体系についての内容解説の理解を通じて学修し、学生諸君がより広い視野から各自の専攻学問分野である経済学と取り組みうるようになることを到達目標とする。
---------------------	---

授業形態	講義
------	----

授業方法	授業は、講義形式を基本としつつ、板書により補完的に解説を加えていく形にて行う予定である。授業では、講義内容に関する理解度およびその前提としての基本的知識を確認するため、学生諸君に対して各回発言を適宜に求め、また場合によってはmanabaにより課題レポートを課すこととする。講義内容について生じた疑問や不明な点は、その講義中に積極的に質問することを推奨する。
------	--

【第1回】
ガイダンス：講義の進め方などの説明をおこなう。

【第2回】
・商法学入門〔1〕
内容：市民社会法体系における商法・会社法の位置づけについて解説する。

【第3回】
・商法学入門〔2〕
内容：社会経済秩序形成原理としての民法規整の限界について解説する。

【第4回】
・商法学入門〔3〕
内容：商法・会社法の存立意義について解説する。

【第5回】
・商法学入門〔4〕
内容：商法たる法源とその適用序列について解説する。

【第6回】
・商法学入門〔5〕
内容：商法規整対象の射程（主体面及び行為面）について解説する。

【第7回】
・商法規整対象主体〔1〕
内容：商人制度の意義と種類について解説する。

【第8回】
・商法規整対象主体〔2〕
内容：商人資格要件について解説する。

【第9回】
・商法規整対象行為〔1〕
内容：絶対的商行為制度の意義と種類について解説する。

【第10回】
・商法規整対象行為〔2〕
内容：営業的商行為制度の意義と種類について解説する。

【第11回】
・商法規整対象行為〔3〕
内容：附屬的商行為制度の意義、会社法人の法定商行為制度の意義について解説する。

【第12回】
・商法規整対象主体〔3〕
内容：商人資格者の名称としての商号制度、商人資格公示制度としての商業登記制度について解説する。

【第13回】
・商法規整対象主体〔4〕
内容：商人資格者の事業活動（財務）記録としての商業帳簿制度、商法と会計慣行について解説する。

【第14回】
・商法学入門〔6〕
内容：「企業」とは何か？「企業」概念をめぐる商法学と経済学上の対象認識のズレについて解説する。

授業計画

【第15回】

・企業を構成する者との利害調整制度

内容：商業使用人制度の意義と種類について解説する。

【第16回】

・企業の譲渡・譲受け

内容：営業譲渡制度について解説する。

【第17回】

・商行為法各論〔1〕

内容：商事売買制度の意義について解説する。

【第18回】

・商行為法各論〔2〕

内容：フランチャイズ契約及び約款取引等の特殊小売事業取引形態について解説する。

【第19回】

・商行為法各論〔3〕

内容：協業・共同事業関係取引形態としての交互計算制度、匿名組合制度について解説する。

【第20回】

・商行為法各論〔4〕

内容：役務引受型事業形態としての取次（問屋〔といや〕）営業、代理営業、仲立営業、そして代理商制度について解説する。

【第21回】

・商行為法各論〔5〕

内容：商品物流関係事業形態としての運送営業と運送「取扱」営業について解説する。

【第22回】

・商行為法各論〔6〕

内容：商品物流関係事業形態としての倉庫営業について解説する。

【第23回】

・商行為法各論〔7〕

内容：旅館・来場事業形態としての場屋取引営業について解説する。

【第24回】

・商行為法各論〔8〕

内容：事業上のリスク引受型事業としての保険営業について解説する。

【第25回】

・商行為法各論〔8〕

内容：本業外資本利殖引受型事業としての信託営業について解説する。

【第26回】

・消費者保護法

内容：企業家倫理欠如商人の営業活動「規制」法としての各種消費者保護法の意義について解説する。

以上

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

1. 事前学修としては、各回授業項目にて指示されている範囲にて教科書を関連条文を参照しながら精読し、その内容を自分なりに理解するよう努めること。

事前・事後学修の内容	<p>2. 事後学修として、授業時間にて口頭および板書にて解説された内容を整理するよう努めること。またその際に興味のわいた、または疑問に感じた事柄については、まずは自分で図書館やWeb上にてさまざまな公開資料にあたり、自分なりの仮説的結論を導き出しておくこと。</p> <p>3. 新聞やWeb上のNewsに毎日目を通し、現在の日本経済がいかなる状況にあって、その活動主体としての株式会社企業法人を中心とする商人たちはその所与の状況にていかに対処しようとしているのか、また対処すべきなのか、その把握に意識的に努めること。</p>
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、期末試験結果および授業参加度（発言・個別課題レポート含む）に拠り、それぞれの割合を90%、10%として行うものとする。 ・授業参加度がきわめて不良であるとき、または別途個別課題レポートが未提出の場合、評価対象外となりうるので、留意してもらいたい。 ・むろん、欠席回数が9回以上となった場合には、当然に評価対象外となる。なお、遅刻と早退についても、その回数によっては評価対象外となりうるので、留意してもらいたい。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 落合ほか『商法I— 総則・商行為 第6版』（2019, 有斐閣）2310円。 2. 長谷部ほか編『有斐閣判例六法 令和7年版』（有斐閣, 2024年）3740円（なお、すでに別の六法を入手している場合には、それにて代用可）。
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 六法を必ず持参すること。 2. 授業中では発言を求められる機会が多くなる。主体性・積極性をもって講義に臨む学生諸君を歓迎する。
更新日	2025/3/19